法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

竹富方言の基礎語彙 ： 分野8(民俗)、分野9(遊戯)

加治工，真市

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
琉球の方言 / 琉球の方言
(巻 / Volume)
27
(開始ページ / Start Page)
61
(終了ページ / End Page)
95
(発行年 / Year)
2003-03-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00012855

竹富方言の基礎語彙

加治工真市

本分野の方言資料は、すべて河上親雄氏（大正３年１月２日生）のご教示によるものである。河上氏は竹富方言の保存に深い関心を寄せられ、長時間にわたる録音調査に献身的にご協力いただいた。深く感謝申し上げるとともに、可能な限り正確に記録してご恩に報いたい。

――分野（８）民俗――

「アー┐ラシムチ　[「ʔaː┐raʃimutʃi]（名）小豆を煮て臼で潰し、黒糖を加え、蒸しあげて作った菓子。美味であった。

「アイ┐ノッタカイカン　[「ʔai┐nottakaikaŋ]（名）東部落の会館。集会場。

ア「ニナー　[ʔa「ninaː]（名）花嫁。新嫁。

ア「ニナー┐ヨイ　[ʔa「ninaː┐joi]（名）結婚祝。

「キュー┐ヤヤー　ヤ「モ┐ーリャナードゥ　ア「ニナー┐ヨイヌ　アッ「トゥー[「kjuː┐jajəː　ja「mo┐ːrjanaːdu　ʔa「ninaː┐joinu ʔat「tuː]（今日は、山盛家に結婚祝いがあるそうだ）。ア「ニ┐ナー　ヨイヌ　ア「リッ┐ティドゥ　ハ「リッ┐タラー[ʔa「ni┐naːjoinu　ʔa「rit┐tidu　ha「rit┐taraː]（結婚祝いがあって、そこへ行ったのでしょう）。ア「ニ┐ナーヨイ　シッティ　「クッ┐タ「ルー[ʔa「ni┐naːjoi　ʃitti　「kut┐ta「ruː]（結婚祝いをして来たよ）

「アンガ~ー　[「ʔaŋgãː], [「ʔaŋgamaː]（名）「姉ごたち」の義か。

「ジシ┐トゥー[「dʒiʃi̥┐tuː]（地謡）を揃え、踊り手が「ホーガキ[「hoːgaki]（頬被り）して三味線に合わせて踊り、家々を回って先祖霊を慰める舞踊隊。「ニンブチャー[「nimbutʃaː]（念仏歌）を三味線で弾くと踊り方が円座になって座し、曲目を地謡にリクェストして踊る。

「アン┐ム「チ　[「ʔam┐mu「tʃi]（名）餡餅。主に小豆餡（小豆を煮てつぶし、黒糖を混ぜて作った餡）を入れた餅。ゴマ餡も入れて作った。

イ「シ┐　[ʔi「ʃi]（名）息。太陽の熱気。暑気。光線。

ティ「ダ┐ヌ　イシヌ　「ヘーリドゥ┐　ウリヤー　ス「ダイ┐ナ~ーユ　「カイ┐リヤー[ti「da┐nu ʔiʃinu　「heːridu┐ ʔurijaː sudaina~ju「kairi┐jaː]（太陽の熱気が射し込んでいるから簾を掛けなさい）。入り日を防ぐために簾をかけて熱気が射し込まないように

した。

イ˩シウス [ʔi˩ʃiusu]（名）石臼。石で作った碾臼。

イ˩シウスティドゥ　アン˥ズナッティヤー[ʔi˩ʃiusu tidu ʔan˥dzunattijəː]（石臼というよ）。餅を作ったり、豆腐を作ったりする際に用いる石製の臼。

イ˩チ˥・ナン˩カ [ʔi˩tʃi˥-naŋ˩ka]（名）五七日忌。人が死亡して後、第五週目の命日にとり行なわれる法事。

イ˩ナ˥ボ [ʔi˩na˥bo]（名）木の下に立つといわれる背の高い精霊。木の精。化け物の一種。

˩マー˥マーナー　イ˩ナボヌドゥ˥　タ˩チトゥー[˩maː˥maːnaː ʔi˩naboːnudu˥ ta˩tʃituː]（どこそこに　イナボが立つそうだ）。夜に使いに出されると、イナボが怖いので大声で歌を歌って行ったという。

イ˩ペ [ʔi˩pe]（名）位牌。イ˩フェ[ʔi˩ɸe]ともいう。

イ˩ペーユ　ティー˥　ウシャー˩シー[ʔi˩peːjuː tiː ʔuʃaː˩ʃiː]（位牌に手を合わせなさい）。イ˩ペー~イ　ティー˥　ウシャーシヤー[ʔi˩peːĩ　tiː˥ ʔuʃaːʃijaː]（位牌に合掌しなさい）

˩イン˥ノッタカイカン [˩ʔin˥nottakaikaŋ]（名）西部落の会館、集会場。

ウ˩ガ˥ン [ʔu˩ga˥ŋ]（動）拝む。神仏を拝む。礼拝する。

ウ˩ヤ˥ヒトゥヌ　˩マイ˥ナー　˩コー　タイ˥ヒティー　ウ˩ガ˥ン˩ヤ˥ー[ʔu˩ja˥çi̥tunu ˩mai˥naː ˩koː tai˥çi̥tiː ʔu˩ga˥ɲ ˩ja˥ː]（先祖の前に香を焚いて拝みなさい）。˩ニン˥ガイ　ヒキ˩リー[˩niŋ˥gai　çi̥ki˩ri]（祈願しなさい。願いつけなさい）。カ˩ミ˥ザー˩ナー˥イ　˩ニン˥ガイ　ヒキ˩リ[ka˩mi˥dzaː ˩naː˥i　˩niŋ˥gai çi̥kiri]（神座《床の間》に祈願しなさい）。

ウッ˩カ˥バシャ [ʔuk˩ka˥baʃa]（名）糸芭蕉の上皮で最も粗悪な繊維のとれる部分。これを利用して凧揚げ用の細糸（こより、細い縄）を作った。赤い色をしている部分。ピ˩ル˥ユル[pi˩ru˥juru]（凧揚げ糸、細縄）を作る繊維。

˩ウ˥ン [˩ʔu˥ŋ]（名）うん（運）。

˩ウンヌ　ジョー˥トル　シトゥ˩チョーッ˥ター[˩ʔunnu dʒoː˥toru ʃi̥tu ˩tʃoːt˥taː]（運のいい人だった）。˩アン˥ジ　˩ウンヌ　カイ˥サル　シトゥッティン　˩アッ˥サー[˩ʔan˥dʒi　˩ʔunnu kai˥saru ʃi̥tutiŋ ʔas˥saː]（そんなに運のきれいな人《強運な人》とてもいるものだ）。

˩ウン˥ケー [˩ʔuŋ˥keː]（名）盆の第一日、精霊迎えの日。先祖の霊を迎える日。

˩トゥン˥ドゥンチー[˩tun˥duntʃiː]（門、入口）で、藁を束ねて燃やす。ウ˩ヤ˥シトゥヌ　ミ˩チェ~ー[ʔu˩ja˥ʃitunu mitʃẽː]（先祖霊の通る道）を門から座敷の前まで白砂で作って、ウ˩ヤ˥シトゥヌ　˩オー˥ル　ミ˩チー[ʔu˩ja˥ʃi̥tunu　˩ʔoː˥ru　mi˩tʃiː]（先祖

のいらっしゃる道）といった。先祖を迎えた夜は、「コーズーシー[「koːdzuːʃiː]（堅い雑炊）を供えた。

「オン　[「ʔoŋ]（名）お嶽。「おがみ」の転訛したものか。普通は「お願」と言っているという。各お嶽には氏子がいて祭祀の準備、女神たちの補佐をしたりする。

「オン¬ビ　[「ʔom¬biː]（名）各御嶽の氏子。「お願べ《人》」の義か。各御嶽には、それぞれのオンビがいて、豊年祭のときに部落の役職人（公民館員や神女、司たち）が各御嶽を回って礼拝するが、その人達をオンビが接待した。

バ「ナー¬ヤ　ハ「ナックヌ　オン¬ビーデン　ナッ「ティ¬ヤー[ba「naː¬ja ha「nakkunu ʔom¬biː den nat「ti¬jəː]（私は玻名城御嶽の氏子になっている）。「ワーヤ　マ¬ヌ　「オ¬ンビーリヤー[「waːja　ma¬nu「ʔom¬biːrijaː]（君はどこの氏子か）。

「カー¬スン　[「kaː¬suŋ]（動）乾かす。温める。

「カー¬ス「ナ[「kaː¬su「na]（乾かすな。温めるな）。「バン¬ダヤー　「カー¬サ「ヌー[「ban¬dajaː　「kaː¬sa「nuː]（私は温めない）、「バン¬ダヤー　「カー¬シタダー「ルー[「ban¬dajaː「kaː¬ʃitadaː「ruː]（私は温めたい）、「ハイ¬サー　「カー¬シヤー[「hai¬saː「kaː¬ʃijaː]（早く温めなさい）、「ワー　カー¬サンー　「バン¬ダヤー　「カーサ¬ヌドゥラー[「waː kaː¬samː「ban¬dajaː「kaː¬sanudu「raː]（君は温めても私は温めないよ）。

「カーチバイ　[「kaːtʃibai]（名）夏至の頃に吹く風。南の風が強く吹く。

「カーヌピー　[「kaːnupiː]（名）ぼうぎれや古着を裂いて綯った縄につけた火。「皮の火」の義か。新生児のミ「チ¬ンザシ[mi「tʃi¬ndzaʃi]（道出し。初めて外出し、親戚の先祖を拝ませる儀式）の日に用いる祭具。「カー¬ヌ「ピー　ヒキー[「kaː¬nu「piː çi̥kiː]（カーヌピーをつけなさい。ぼろ切れ縄の火をつけなさい）。単独で、「カー¬ヌ「ピー[「kaː¬nu「piː]と発音されることもあるが、おそらく二語意識の反映したものであろう。

「カー¬ラシ「アイ　[「kaː¬raʃi「ai]（名）「繋らせ喧嘩」の義。凧揚げ喧嘩。凧揚げ遊びの一種。

子供達が組を作って凧揚げ喧嘩をして遊んだ。糸の長い凧が喧嘩に強いので、友人同士で凧糸を貸しあって凧揚げ喧嘩をした。走りながら相手の凧に迫り、相手の凧の尾を自分の凧の糸に引っ掛けて落した。

カ「ナッ　[ka「naʔ]（名）かんな（鉋）。カ「ナ[ka「na]とも。

カ「ナ¬ヒキ　シレー[ka「na¬çi̥ki　ʃireː]（鉋をかけなさい）。カ「ナッ¬キ　シレー[ka「nak¬ki ʃireː]（鉋かけをしなさい。鉋引きをしなさい）ともいう。

「カン¬ガン・ム「チ　[「kaŋ¬gam-mu「tʃi]（名）鏡餅。

正月に床の神の前に供える飾りの餅。三段重ねの餅の上に密柑を重せ、嘉例吉のシンボルとした。

「カン┐ヌ・グ「シ　[「kan┐nu-gu「ʃi]（連）神の御酒。

「カン┐ヌ・グ「シ┐　カミ「リー[「kan┐nu-gu「ʃi┐　kami「riː]。（神の御酒をいただきなさい）。

「ガ┐ン　[「ga┐ŋ]（名）龕。死者の棺を入れて運ぶもの。

「キー┐ウ「スー　[「kiː┐u「suː]（名）木臼。松の大木の幹を用いて作った臼。籾摺り用の臼と精米用の搗き臼があった。ッ「シャイ┐ウ「スー[ʃ「ʃai┐u「suː]（精げ臼）は搗き臼である。

キ「ザ┐ル　[ki「dza┐ru]（名）祭。祭祀。年中行事。神事。キ「ザ┐ルで最大のものは「種取祭」である。願立てから終りまでの期間が10日間もあるという。ッ「カ┐サー[tsu̥「ka┐saː]（司。神女）たちが10日間お嶽参りをして祈願する。部落の人が動き出すのはトゥ「ルッキ[tu「rukki]の日からである。昔は、トゥ「ルッキの日は島から船を出してもいけないし、また、外部に出てもいけないというきまりがあったたという。

キ「チガン　[ki̥「tʃigaŋ]（名）結願祭。旧暦8月4日から5日にわたって行なわれる祭祀。キ「チ┐ガンマツリ[ki̥「tʃi┐gamatsuri]（結願祭）ともいう。[「kjuː┐ja ki̥「tʃigannu┐ma「tsuriju]（今日は結願祭です。）イ「チネンジュー　ズーッ┐トゥ　「ニン┐ガイ「オーッ┐タルー　ハ「ジ┐リドゥ　ナ「リ┐ル「ユー┐　キ「ツガンッティーノー[ʔi「tʃinendʒuː dzuːt┐tu　「niŋ┐gai「ʔoːt┐taruː　ha「dʒi┐ridu　na「ri┐ru「juː ki̥「tsugantinoː]（一年中、ずっと祈願してこられたことの願ほどきになっています。結願祭というのは。）。豊年感謝の祈願。「セイノーオタケ[「ʃeinoːʔotake]（氏子のいないお嶽。学校の側にある）部落全体で支えている。「マイ┐ノー「オン[「mai┐noː「ʔoŋ]ともいう。「マイ┐ヌ「オンナーイ┐ドゥ　キ「ツガンヌ　ニン┐ガイヤー　「シッティー┐　ピ「ロー┐ハラヤーッターブ「ドゥイキョンギンヌ┐　ア「リー┐ドゥリ「ユー（マイヌオンで結願祭の祈願をして、午後からは踊り狂言の奉納がありますよ）。昔は部落持ち回わりで行われた。六名のツ「カ┐サ[tsu̥「ka┐sa]（司）がいらっしゃったが今は三名しかおられない。

「キン┐コージ　[「kiŋ┐koːdzi]（名）金麹。米や麦などを蒸して筵などに広げ、麹菌を繁殖させたもの。醤油や味噌を作る際に用いる。酒を作る際には黒麹を作って使用したという。

「クイ┐ナーッキー　[「kui┐naːkkiː]（名）結納。「妻乞い」の義。

「キュー┐ヤーヤ　「クイ┐ナーッキー[「kjuː┐jaːjə　「kui┐naːkkiː]（今日は結納「妻乞い」だ）。「キュー┐ヤーヤ　バ「ナ┐ー　ジ「ナンヌ　「クイ┐ナーッキティドゥ　「アイ┐ラー[「kjuː┐jaːjə ba「na┐ː dʒi「nannu kui┐naːkkitidu「ʔai┐raː]（今日は私の二男の結納であります）

グ「シ　[gu「ʃi]（名）酒。「御酒」の義か。神仏の前に供える酒のこと。グ「シ┐　カザレー[gu「ʃi┐ kadzareː]（お酒を供えなさい）。「カン┐ヌ　グシ　カミ「リ[「kan┐nu guʃi

kami˩ri]（神の御酒をおしいただきなさい）

ク˩マ˥ーリャオン　[ku˩ma˥ːrjaoŋ]（名）細原御嶽。˩バン˥ダーヤー　ク˩マ˥ーリャオンヌ　˩オン˥ビーッシェー[˩ban˥daːja ku˩ma˥ːrjaonnu ˩ʔom˥biːʃʃeː]（私たちは細原御嶽の氏子です）。

ク˩マ˥イ　[ku˩ma˥ĩ]（名）緑豆。緑色をした、小粒の豆。もやしの原料として利用された。「細豆」の義か。

ク˩ロ˥コージ　[ku˩ro˥koːdʒi]（名）黒麹。酒を造る際に用いる麹。酒の醸造に用いる麹。

˩コー　[˩koː]（名）線香。沖縄線香。大和線香。

˩コー˥　タイ˩ヤ˥ー[˩koː˥ tai˩ja˥ː]（線香をたきなさい。線香を焚いて合掌しなさい）。

˩コージ　[˩koːdʒi]（名）こうじ（麹）。

˩コージユ　ヌンバシヤ˥ー[˩koːdʒiju numbaʃi ja˥ː]（麹をたたてなさい。「麹をねかせよ」の義）。ミ˩シュ˥ヌ　コージ　ヌンバシダ˩ル[mi˩ʃu˥nu koːdʒi numbaʃida˩ruː]（味噌用の麹をたてている。《～をねかせている》）。

˩コー˥ネ˜ー　[˩koː˥nẽː]（名）男の子。男子。

˩ナ˜ー˥　マリル　ファーヤー　˩コー˥ネ˜ー　マリ　ドゥ˩ラー[˩naĩ˥　mariru ɸaːjaː ˩koː˥nẽː maridu˩raː]（今生まれる子は男児が生れているね）

˩コン˥トゥオン　[˩kon˥tuʔoŋ]（名）南村に祭られている。トゥ˩ヌ˥イムトゥ[tu˩nu˥imutu]神の御嶽。

˩ザー　[˩dzaː]（名）種取祭当日の舞台。奉納舞踊場。当日の舞台本番のこと。

˩ザー˥ナイー　イ˩ザ˥サンメー　マ˩チ˥ガイ　˩ネーヌ　ジョー˥トーニ　ヒ˩クイライドゥラ˥ー[˩dzaː˥naiː ʔi˩dza˥sammeː ma˩tʃi˥gai ˩neːnu dʒoː˥toːni çi̥˩kuĩraidura˥ː]（舞台本番で出しても間違いないよ。上等《立派》に仕組まれているよ）

˩サン˥ガ˩チ　[˩saŋ˥ga˩tʃi]（名）三月。˩サンガチ˥サニチ[˩saŋgatʃi˥sanitʃi]（三月三日）、ハ˩マウリ[ha˩mauri]（浜下り）、などがある。

˩サンガチ˥サニチ　[˩saŋgatʃi˥sanitʃi]（名）旧暦３月３日祭。女性主体の祭り。男も女も潮が干くと潮干狩りに出る。口碑によると、蛇の化身である男と契りを結び、懐妊した女が、老婆の教えにより、後朝のわかれに麻糸を男の髪に刺しておいた。翌朝その糸をたどって行ったところ、岩穴に入り、男の正体が蛇であることを知った。女は、老婆の教えにより、旧暦３月３日に潮干狩りに出て蛇の子を流産した。以後旧暦の３月３日は女の祭りとなったという。

˩ンーヌ˥ムチ[˩nːnu˥mutʃi]（いも餅）のだんごを作って潮干狩の弁当に持参した。三月三日祭の供物として作られた。

˩サンガナ　[˩saŋgana]（名）芋を擂りおろす器具。˩サンガナティドゥ　アン˥ジ　アン

ク「ラー[「saŋganatidu ʔan˥dʒi ʔaŋku「raː]（サンガナと言うねえ）。

「サン˥ケー　[「saŋ˥keː]（名）桟敷。十五夜の網引き行事が行なわれる際に、村部の長老たちが座して参観するために作られた。昔はマ「ミン˥ドー[ma「min˥doː]（河上家の前の十字路の名）で作られたという。

「シーシ　[「ʃiːʃi]（名）すす（煤）。

フ「ル˥ヤー　クーシー　「シー˥シ　カビー　ミ「ジ　アウ̃ナーッ˥タ　ナ「リョーサ˥レーンシェー[ɸu「ru˥jaː kuːʃiː「ʃiː˥ʃi kabiː mi「dʒi aũnaːt˥taː na「rjoː˥sareːnʃeː]（古家を壊して、煤やほこりをかぶって、水を浴びないと、いけないようだ）、フ「ル˥ヤークースッター　「シー˥シ　カビー　ミ「ジ　アイ̃ーナードゥ˥　ナ「リョー˥サ「ルー[ɸu「ru˥jaː kuːsuttaː「ʃiː˥ʃi kabiː mi「dʒi ʔaĩːnaːdu˥ na「rjoː˥sa「ruː˥]（古家をとり壊したので煤やほこりをかぶり、水浴びした方がよさそうだ）

「ジー˥キョンギン　[「dʒiː˥kjoŋgiŋ]（名）結願祭に演じられる狂言。「例の狂言」の意。長老が出てきて、各部落の有志を呼び集めて結願祭に出かけるという内容。狂言は、この場面から始まる。これをシ「バ˥ン[ʃi「ba˥ŋ]（始番の義か）という。次に必ずイモの祈願をして狂言に移る。この祈願を「ハンツメ[「hantsume]の願いとい、その後ハンツメの狂言をする。狂言の内容は、ほゞ次の通り。部落の公民館長の娘が、今日は、二、三日したら結願祭が来るから、さあイモ掘りに行こうと誘う。歌をうたいながらイモ掘りをする風景があって、次に西部落の長老の息子が掘り出した芋（イモ）を担ぎに来る。担ごうとすると尻を押したりして性的な「かまけわざ（感けわざ）」をして人々の笑いを誘う。そのようにして芋をたくさん担いで、「アーフ　[「ʔaːɸu]（番）に乗せて担ぎ、喜び勇んで歌をうたいながら幕の内に入っていく。歌の意味は、男と女の関係を、性描写をリアルに表現しているという。

「ジー˥ジョーン　[「dʒiː˥dʒoːŋ]（名）屋敷内に石を立てて祀った神様。「土地の神」という。今ではあまり見られない。「地蔵」の転訛したものであろう。国吉宅の十字路の角に「ジー˥ジョーンが祀られている。

「コー˥ナー　「ジー˥ジョーンヌ　アッ「チョー[「koː˥naː「dʒiː˥dʒoːnnu ʔat「tʃoː]（ここに地蔵様があるよ）

「シーブ　[「ʃiːbu]（名）歳暮。中元。昔は自分で作った大根やお米、いも類を親戚、縁者の家に贈ったりした。「ション˥ガチヌ　「シーブユー[「ʃoŋ˥gatʃinu「ʃiːbujuː]（正月の歳暮でございます）といって歳末の贈物をしたり、中元の贈物をした。ク「レーメ˥ーヤタンティン　「ション˥ガチヌ　「シーブ˥ティドゥ　ム「チ˥ゲッタケンナー　ウ「キ˥トゥリ「オーリッ˥ティ　マ「ター　イー˥　ションガチ　「ショー˥ラナー「ラー[ku「reː　me˥ːjatantiŋ「ʃoŋ˥gatʃinu「ʃiːbu˥tidu mu「tʃi˥gettaken naː ʔu「ki˥turi「ʔoːrit˥tiː ma「taː ʔiː˥　ʃoŋgatʃi　「ʃoː˥ranaː「raː]（これは、少しですが正月用の歳暮

として持参しましたので、ご受納下さいまして、また、いい正月を共にお迎えしましょう）と言いかわした。

シ˩チ [ʃi̥˩tʃi]（名）節祭。旧暦七～九月に行われる豊作祈願祭。後生の正月ともいわれる。シ˩チ˥ミッカ[ʃi̥˩tʃi˥mikka]（節三日）は忌み嫌って畑作業に出なかった。

シ˩チ˥ミッカ [ʃi̥˩tʃi˥mikka]（名）節三日の日は忌み嫌って畑に出なかった。˩ション˥ガチミッカ[˩ʃoŋ˥gatʃimikka]（正月三日）も同様に畑仕事に出なかった。今の若者はそれを知らない。昔は、˩ション˥ガチミッカサーニドゥ ハ˩テ˜ー˥ン シーッティドゥ ˩トーリッ˥タ˩トゥー[˩ʃoŋ˥gatʃimikkasaːnidu hḁ˩teː˥ŋ ʃiːttidu ˩toːrit˥ta˩tuː]（正月三日に畑仕事をして倒れたそうな）といわれたという。

シ˩バ˥ン [ʃi˩ba˥ŋ]（名）「始番」の義か。

˩ジー˥キョンギン[˩dʒiː˥kjoŋgiŋ]（例の狂言）の狂言始めの意。長老が現われて、各部落の有志を集め、結願祭に出かけることを述べ、狂言を展開させる部分。

ジ˩ル [dʒi˩ru]（名）地炉。お産の時に作った。

ジ˩ル˥ユー ˀ˩クリ˥ティー ˩アイ˥ター ˩ミ˥ドーヌー ˩ファー ナシェー˥ル アトゥユー ク˩シナカー˥スッタルー ス˩リカー˥スッタルー ˩シリヤ˥ー[dʒi˩ru˥ju ɸ˩kuri˥tiː ˩ʔai˥taː ˩mi˥doːnu ˩ɸaː naʃeː˥ru ʔatujuː ku̥˩ʃinakaː˥ suttaruː su˩rikaː˥ suttaru ˩ʃirija˥ː]（地炉を作って産婦が子を産んだ後、背中を乾かしたり、お尻を乾かしたりしなさい。火をあてて温めることをいう）。＊ク˩シ˥ナーku̥˩ʃi˥naː（背中）＊ス˩リsu˩ri（お尻）＊˩カー˥スン˩kaː˥suŋ（乾かす）

˩ジューゴヤ [˩juːgoja]（名）˩ジュン˥グヤ[˩dʒuŋ˥guja]とも。旧暦８月15日に行われる十五夜祭。各部落の旗頭（東部落は太陽を形取ったもの。ティ˩ダ˥カチラ[ti˩da˥katʃira]《太陽旗頭》、西部落は「亢竜」を形取ったもの。˩リュー˥カチラ[˩rjuː˥katʃira]《亢竜旗頭》）をマ˩ミン˥ドー[ma˩min˥doː]（十字路の名）に集めていたが、今は学校に集まり、東と西に分かれて綱引きが行われている。そこで十五夜のグ˩シ[gu˩ʃi]（御酒、神酒）をカ˩ミ˥ル[ka˩mi˥ru]（いただく）という。旗頭をそこから東部落へ運び、さらに仲筋部落へ行き、西部落へ帰ってきて旗頭を片付け、各支会に分かれて観月会をした。仲筋部落の旗頭は鯉を象ったものである。二匹の鯉が踊っている形をデザイン化したもの。立身出世を祈願するものという。

˩ジュー˥ルックニチ [˩dʒuː˥rukkunitʃi]（名）旧暦の１月16日祭。お墓で先祖の正月を祝う祭。「先祖の正月」といって、墓で一族が集まり、御馳走を供え、歌、三味線で祝った。

˩キュー˥ヤ ウ˩ヤ˥ヒトゥヌ ˩ション˥ガチッティ アヒティー ˩ジュー˥ルクニチカザリ シー ハ˩カソージ˥ シナーッティドゥ ア˩ロー[˩kjuː˥ja ʔu˩ja˥çi̥tu nu ˩ʃoŋ˥gatʃitti ʔaçi̥tiː ˩dʒuː˥rukunitʃikadzari ʃiː ha˩ka˥soːdʒi ʃinaːttidu ʔa˩roː]（今日

は、先祖の正月といって、十六日飾りをして、墓掃除をしにといって行くところだ）

「ジュン¬グヤヌ・ム「チャ〜ー [「dʒuŋ¬gujanu-mu「tʃaɪ̃] （連）十五夜の餅。俵の形に成形して蒸したものに煮た小豆を表面にまぶして作った餅。

シ「キ¬ヌ　マイッ「タ¬ナー　フ「カン¬ギトゥ　「ジュン¬グヤヌ・ムチトゥヤー　カ「ザリティー　ジュン¬グヤヌ　ニン「ガイ¬　シレー[ʃi̥「ki¬nu mait「ta¬naː ɸu̥「kaŋ¬gitu「dʒuŋ¬gujanu-mutʃituja: ka「dzaritiː「dʒuŋ¬gujanu niŋ「gai¬ ʃireː]（お月様の前にフカンギと十五夜餅とを供えて、十五夜の祈願をしなさい）。ッティ　「アン¬　ジョーッタ　チョー「ラー[ttiː　「ʔan¬dʒoːttatʃoː「raː]（〜と、おっしゃっておられたそうな）。

ショッ「コ [ʃok「ko]（名）「焼香」の義。法事。仏前で香をたいて成仏を祈願する法事。四十九日忌は、「フー¬ショッ「コ[「ɸuː¬ ʃok「ko]（大きな焼香、大法事）となる。ショッ「コ[ʃoːk「ko]（法事）は三十三年忌までとり行う。

「ショーロー [「ʃoːroː]（名）お盆祭。「精霊」の義。「ショー¬ローヒキ[「ʃoː¬roːçi̥ki]（精霊月、旧暦７月13日、14日、15日）。精霊月には祝いごとは一切行わない。

「ショー¬ローヒキーヌ　キードゥ　ウリーヤ〜[「ʃoː¬roːçi̥kiːnu kiːdu ʔuriːja〜]（精霊月がきているので〜）

シ「ラ¬ヨイ [ʃi「ra¬joi]（名）生後７日目に行なう満産祝い。「産屋祝」の義。産婦と新生児が産屋（産室）から出て、ミ「チ¬ンザン[mi「tʃi¬ndzaʃi]をした。「マン¬サン[「man¬saŋ]（満産）ともいう。

「シンジュ¬クー [「ʃindʒu¬kuː]（名）四十九日忌。人が死亡して後、第七週目の命日（四十九日）にとり行なわれる法事。

ス「ズルッタ¬ムリ [su「dzuruta¬muri]（名）ス「ズルタ[su「dzuruta]を盛ったもの。八寸角の重箱に御馳走を盛り、長いお膳（バ「キトゥルン）に乗せ、酒一升を添えて花嫁を貰いに行く。この時の御馳走を盛ったものをいう。これが「クイ¬ナーッキー[「kui¬naːkkiː]（結納）の際の供え物である。ス「ズルッタ¬ムリ　シティー　「イッ¬シュビンナー　グ「シ¬ユー　イ「リ¬シティー　ムッ「チ¬ハリドゥ　「クイ¬ナーッケー　「シッタナッ¬ティヤー¬[su「dzurutta¬muri ʃi̥tiː　「ʔiʃ¬ʃubinnaː guʃ¬ʃi¬juː ʔi「ri¬ʃi̥ti mut「tʃi¬haridu「kui¬naːkkeː「ʃittanat¬tijaː]（スズルッタを盛って、一升瓶に御酒を入れて持って行って結納をしたものだよ）。

ス「ダイ¬ナ〜ー [su「dai¬naɪ̃]（名）簾。竹やススキで編んで軒に垂らしたり、立てかけたりするに用いた。夏の日光をさえぎるのに用いた。ティ「ダ¬ヌ　「ヘーリドゥ¬　ウリヤ　ス「ダイ¬ナ〜ーユ　「カイリヤ¬ー[ti「da¬nu「heːridu¬ ʔurija su「dai¬ naɪ̃ju「kairija¬ː]（日光が射し込んでいるからスダレをかけなさい）

ス「ニ¬バチ [su「ni¬batʃi]（名）ばち（罰）。

ス「ニ¬バチ　アタルン「ドー[su「ni¬batʃi ʔatarun「doː]（ばち《罰》が当たるぞ）。

「アイ¬ル　クトゥ　シースニヤッター　ヒ「トゥ¬ヌ　ス「ニ¬バチ　アタルン「ドー[「ʔai¬ru kut̥u　ʃiːsunijattaː　çi̥「tu¬nu　su「ni¬batʃi ʔatarun「doː]（そんなことをすると人の罰が当たるぞ）

ス「ビヒキャ[su「biçi̥kja]（名）おしめ（襁褓）。ス「ビッキャ[su「bikkja]（おしめ）とも発音する。

ス「ビ¬ヒキャ　ヒケー[su「bi¬çi̥kja çi̥keː]（おむつを敷きなさい《当てなさい》）。

「ナ¬ニ̃デー　ス「ビ¬ヒキャー　ツ「カイドゥダ¬ー　ス「ビ¬ヒキャー　ヒカナッター　ユ「グリドゥ　ウリャー¬　ス「ビ¬ヒキャー　ッ「キドゥラ¬ー[「naⁿ̃deː su「bi¬çi̥kjaː k「kaiduda¬ː su「bi¬çi̥kjaː çi̥kanaː ju「guridu ʔurjaː¬ su「bi¬çi̥kjaː k「kidura¬ː]（今までおしめを使っているよ。おしめを敷かないと汚れているから、おしめを敷いているよ）昔は古着を使っておしめを作っていた。

ス「ム¬ヤッケ　[su「mu¬jakke]（名）。シ「ムヤッケ[ʃi「mujakke]ともいう。今は「会館」と言っているという。「アイ¬ノッタカイカン[「ʔai¬nottakaikaŋ]（東の会館）。「イン¬ノッタカイカン[「ʔin¬nottakaikaŋ]（西の会館）と言う。「ナージ¬カイカン[「naːdʒi¬kaikaŋ]（仲筋会館）。「建物」の義という。ス「ム¬ヤッケ[su「mu¬jakke]は、あるいは「下屋敷」（村の別邸、集会場）の義か。

ス「ルンガニ　[su「ruŋgani]（名）はりがね（針金）。

「スルンガネー　[「suruŋganeː]（名）針金（はりがね）。「ス¬ルンガ「ネー¬サーンディ「フィリヤ¬ー[「su¬ruŋga「neː¬saːndi「ɸuirija¬ː]（針金でくくりなさい）

「ソン¬ガチ　[「soŋ¬gatʃi]（名）一月。「正月」の義。これより転じて、「一月」の意に用いる。「ソン¬ガチヒキ[「soŋ¬gatʃi çi̥ki]（一月の月。「正月の月」の義）。

「ソン¬ガチ　[「soŋ¬gatʃi]（名）正月。年の始め。正月には、「ナージ¬ガー[「naːdʒi¬gaː]（降り井戸）から若水を汲んできた。ミ「ジヌハチ¬フニキー　「ヤー¬ニンジュー　ミ「ズーヌハチサーニ　ウ̃ニ¬ティ　シ̃ニシー「リ[mi「dʒinuhatʃi¬ ɸuniki: 「jaː¬nindʒuː mi「dzuːnuhatʃisaːni ʔuⁿ̃ti ʃiⁿ̃ʃiː「ri]（若水を汲んできて家族みんな若水で顔を洗わせなさい。洗顔させなさい）。また正月には浜から新しい砂を運んで庭に敷きつめた。イ「シャー¬ハクチ[ʔi「ʃaː¬ hakut̥ʃi]という、新里村（古村跡）の大きな浜の大岩のある所から砂を取り、各家に運んだ。大晦日の日に砂運びをした。床の間、仏壇、火の神には鏡餅を供え、その上に密柑を置いた。床の間には重箱に米を入れて五段重ねにしたものを供えた。「マーシュ¬ウサイ[「maːʃu¬ʔusai]（塩の盛りつけ）も供えた。

戦前、竹富島に村役場があったたので、早くから新正月に統一されていた。旧正月をするのは、神役関係の人、農家あたりで、新、旧の正月を祝った。

タ「ク¬カーラシ　[ta「ku¬kaːraʃi]（名）凧の喧嘩。「凧繋らせ」の義か。凧揚げ遊びの一種。凧を繰りながら、相手の凧の尾を自分の凧のピ「ル¬ユル[pi「ru¬juru]（凧揚げ糸）

に引っ掛けて落す遊び。「凧繋らせ遊び」の意。タ「クカーラシショーブ　シラ「ディー[ta「ku kaːraʃi ʃoːbu ʃira「diː˥] (凧の喧嘩をして遊ぼうよ)

タ「ナバタ　[ta「nabata] (名) 七夕、棚機。昔は民間ではあまり行なわなかったという。旧暦の七月七日（丙寅、ひのえとら）になると、公民館の役員がミルク（弥勤）拝殿に行き、ミルクの面を飾って、精霊月に入ったことを報告したという。安置された衣裳なども取り出して飾り、一種の虫干しをしたという。昔は旧家の大山家にミルクは安置されていたという。

タ「ニドゥル　[ta「niduru]、**タ「ナドゥイ**　[ta「na˥dui] (名) 種取り祭。種取祭はトゥ「ルッキ[tu「ruk˥ki]から始まる。穀物の種を蒔いて順調に発芽するよう祈願する祭祀。粟の種は11月頃から播種し始める。島を挙げてとり行われ、「庭の芸能」と「神事芸能」が盛大に演じられる。第一日にバ「リビルヌ・ニガイ[ba「ri˥birunu-nigai] (大蒜の発芽祈願) があり、第二日には、「ムイムイヌ・ニガイ[「muimuinu-nigai] (もやし、萌やしの祈願) がある。大蒜お萌やしのように発芽することを祈願する。余興は第1日目に行われる。トゥ「ルッキから4日目にあたる。タ「ニドゥルは10日間にわたって祈願される祭祀である。第1日目の余興には、ハ「ザマ[ha「dzama] (今は東部落と西部落を一緒にしてなされる狂言) があり、第2日目は「ナージ[「naːdʒi] (仲筋部落の芸能、狂言) が演じられる。狂言は、ほとんど五穀豊穣を祈るものである。「ホンジャー[「hondʒaː] (長者) が現われ、各種の種ものを持参し、祈願して帰る。その後にミ「ルク[mi「ru˥ku] (弥勤神) が出てくる。次に農具を整える鍛冶屋が出、鍬を担いだ男が出て開墾、畑を耕す芸能が続く。最後に「ユーヒキ[「juː˥çi̥ki] (豊穣予祝) の芸能が演じられる。これでジーキョンギン[「dʒiː˥kjoŋgiŋ] (例の狂言) は終了する。タ「ナドゥイヌ　ヨ「キョーヌ　ジュンバンユ　ッ「シャルナーラ。ハ「ジェ~ヤー「ダイ　イ「チニチメーヤ　ハ「サ~ヌ　ヨ「キョーヌドゥ　ジューイチジバーイラユ「ムチ　オタケヌ　「カンヌ　「マイナーイ　ハ「ジャ~ル　ユー。サイショーヤメー　「ホンジャーヌ　イ「ジョーリッティー　「ヌーサラ　ニ「ガイヒキ「オーッタ　オ「カゲサーニ　カイ　「ホーサク　シライタティ　アシティー　「ホーサクヌムヌックイユー　ム「チョーリ　「ホンジャーヌドゥ　「ニンガイオール「ユー。ウ「ヌ　ツゲーヤ　ミ「ルクヌカン　ヌドゥ　ン「ジョーリシティ　「ファーマーユヒ「キスーリー　ミ「ルクヌ　カンヌドゥ　ン「ジョールユー。マター　ウ「ヌ　ツゲーヤ　カ「ジャーヌ、カ「ジャーキョンギンヌ　「ニヒシティドゥ　クヌー　ム「ヌックイ「ユー　シルー　ヒ「ラカナパイ　ツ「トゥナナッター　ナ「ラヌッティー　カ「ジャーヌ　ン「ジョーリ　カ「ジャーヌ　キョンギンヌドゥ　ハジャ~ル「ユー。カ「ジャーヌキョンギンヌ　ア「トーハラーヤメー　バ「ガサル　ムヌヌ　ン「ジキードゥ　ハ「テーイドゥ　ハ「タイドゥ　チャンティー　「ジー　ナ「ラーシシー　ウ

「ルイ」ヌ　「クー」ヌドゥ　マッ「ツー　キョン」ギンドゥ　「シー」ル「ユー。[ta「na」duinu jo「kjo:nu dʒumbaɲju」 ʃ「ʃaruna:ra」. ha「dʒẽ」:ja: 「da」i ʔi「tʃi」nitʃime:ja ha「sa」ĩnu jo「kjo:nudu dʒ:」itʃidʒiba:ira ju「mu tʃi ʔota」kenu 「kan」nu 「maina:」i ha「dʒaĩruju:. sai」ʃo:jame: 「hon」dʒa: nu ʔi「dʒo:rit」ti: 「nu:sara」 ni「gai」çi̥ki 「ʔo:t」ta ʔo「kage」sa:ni kai 「ho:saku ʃiraitati ʔaʃi̥」ti: 「ho:sakunu」 mu「nuk」kuiju: mu「tʃo:ri hon」dʒa:nudu 「niŋ」gaio:ru 「ju:」. ʔu「nu tsuge: ja mi「rukunukan」nudu n「dʒo:ri」ʃi̥ti 「ɸa:」ma:ju çi̥「kisu:ri:」 mi「rukunu kan」nudu n「dʒo:ruju:. mata」 ʔu「nu tsuge:」ja ka「dʒa:nu」 ka「dʒa:kjoŋginnu niçi̥」ʃitidu. kunu: mu「nuk」kui「ju:」 ʃiru: çi「ra」kanapai tsu̥「tu」nanatta: na「ra」nutti: ka「dʒa:nu」 n「dʒo:」ri ka「dʒa:nukjoŋ」ginnudu hadʒaĩru「ju:」. ka「dʒa:nukjoŋ」ginnu ʔa「to:」haraja me: ba「ga」saru mununu n「dʒiki:」du ha「te:」idu ha「taidu tʃan」ti 「dʒi:」 na「ra:ʃi」 ʃi: ʔu「rui」nu 「ku:」nudu mat「tsu: kjoŋ」gindu 「ʃi:」ru 「ju:] (種取祭の余興の順番を申し上げます。最初は、第1日目は玻座間部落の余興を11時ごろから世持御嶽の神前で始まるのです。最初はもう、ホンジャ（長者）が出現されて、いろいろ祈願されたお陰で、このように豊作することができた。そして豊作の産物（作物）を持参されて、長者が祈願されます。その次は弥勒の神様が出現されて、子孫をたくさん引き連れて、弥勒の神様が出現されます。また、その次は鍛冶の、鍛冶狂言が始まります。鍛冶狂言の後からは、もう若い者たちが出てきて、畑をきちんと地ならしして、潤いの雨がやってくるのを待つ狂言をしております)

ダ「ビ　[da「bi]（名）「荼毘」の義。葬式のこと。昔は人が死ぬと、ム「ラ」コーデン[mu「ra」ko:deŋ]（村で決められた香典）があって、それを部落でまとめて出し、葬式をいとなんだ。棺は各自で、デイゴの木で作った板を用意していた。それを早く死んだ人に貸した。「ニンブチャー[「nimbutʃa:]（念仏者）がいて、代々その家の人が経を読んで葬式をいとなんだ。

タ「ル　[ta「ru]（名）大豆や糯米を碾いて豆腐、餅を作るのに用いる大型の桶。直径約55センチ、高さ約40センチの木製の桶。木板を組み、張り合わせて作られている。

「タンカヨイ　[「taŋkajoi]（名）誕生祝い。生後1年目の誕生日を祝う儀式。「タンカーキシ」ター　「タンカ」　カ「ミ」シター　「ボー」レナリー　タンカー　カ「ミッタ」シャー[「taŋka: 「kiʃi̥」ta: 「taŋka」 ka「mi」ʃi̥ta: 「bo:」renari:]（誕生日が来たので、誕生日を拝んだら元気な子になっている）。誕生祝いは、いろいろと御馳走を作って、餅も作り、帳面と算盤と秤などを供えた。マ「ラ」シンガン[ma「ra」ʃiŋgaŋ]（産土神）の前で祈願をし、供物を子供の前に置いて、子供に選択させるようにする。子供が最初に秤を取ると商才がある子供といい、帳面を取ると、学問の道に進む才能があるといって、親達は子供の将来に夢を託したものである。

チ˩チ [tʃi̥˩tʃi]（名）節祭り。チ˩チマツリ [tʃi̥˩tʃimatsuri]（節祭り）ともいう。旧暦8月11日に行なわれる。ミルク神の「お面」（ご神体）を出して拝む。

ティ˩ダ˥カチラ [ti˩da˥katʃira]（名）東部落のシンボルである旗頭のこと。太陽を象ったデザインの旗頭。旧暦8月15日の十五夜の日に綱引きの行事が行なわれるが、その時に担ぎ出される。昔は、東、西、南部落の旗頭がマ˩ミン˥ド[ma˩min˥doː]（道路の名）に集まり、˩サン˥ケー˩[˩saŋ˥keː]（桟敷）を作って部落の長老らが座し、そこで綱引きが行なわれた。

ティ˩ラ [ti˩ra]（名）寺。竹富島には「喜宝院」という寺がある。檀家組織をもたない寺であるという。真言宗。

ッ˩サーフ [s˩saːɸu]（名）仕事。

シ˩マ˥ヌ ˩ガッ˥コユー ˩ヘーグサラ ベンキョー シッティー˥ ソ˩ツギョー シッティー ハイ˥サ ッ˩サーフ˥ ˩ク˥ヨーニ シレー[ʃi˩ma˥nu ˩gak˥kojuː ˩heːgusara beŋkjoː ʃittiː˥ so˩tsugjoː ʃittiː haiˬsa s˩saːɸu˥ ɸu̥˩ku˥joːni ʃireː]（島の学校を、うんと勉強して、卒業して、早く仕事に就くようにしなさい）

ッ˩サ˥カイヨー [s˩sa˥kaijoː]（句）下草を刈れ。

草刈りが大切。七回草を取ると立派に実る。ッ˩サ˥ヤ ナ˩ナ˥シ˜ウトゥ トゥ˩リ[s˩sa˥ja na˩na˥ʃiũtu tu˩ri]（草は七回取りなさい。除草しなさい）。

ッ˩シャイ˥ウ˩スー [ʃ˩ʃai˥u˩suː]（名）「精げ臼」の義か。松の大木の幹を用いて作った臼。穀物を搗いて精げるのに用いる農機具。玄米を入れて堅杵や大槌で搗いて精米するのに用いる。

ッ˩シャルン [ʃ˩ʃaruŋ]（動）申し上げる。「知らす」の義か。謙譲の意をあらわす。「知らせる」の義か。˩ニン˥トゥ ッ˩シャリレー[˩nin˥tu ʃ˩ʃarireː]（年頭の挨拶を申し上げなさい）。ッ˩シャリシタ˥ー [ʃ˩ʃariʃi̥ta˥ː]（申し上げた）。˩ワーヤ メー˥ダトゥ˩シ˥ バカサリヤー ˩バー ッ˥シャリ ウリヤー ˩ワーヤ˥ ッ˩シャルナー[˩waːja meː˥da tu̥˩ʃi˥ bakasarijaː ˩baːʃ˥ʃariurijaː ˩waː˥ ja ʃ˩ʃarunaː]（君はまだ年若いから、若くしているから、君は申し上げるな）

ッ˩シェ˜ー [ʃ˩ʃe˜ː]（名）女の子。子女。

マ˩リル ファー˥ヤー ッ˩シェー˥ヌドゥ マリ˩ラー[ma˩riru ɸaː˥jəː ʃ˩ʃeː˥nudu mari˩raː]（生れる子は、女児が生れるね）

ッ˩タ˥ティ [ˈ˩t'a˥ti]（名）醤油。「下地」の音韻変化したもの。ッ˩タ˥ティヌ コージヌンバシーダ˩ルー[ˈ˩t'a˥tinu koːdʒi numbaʃiːda˩ruː]（醤油用の麹をたててある。～を寝かせてある）。シ˩タ˥ティ[ʃi̥˩ta˥ti]（下地。醤油）は、ッ˩タ˥ティ[ˈ˩t'a˥ti]（下地）の丁寧な発音。

トゥ˩ク [tu̥˩ku]（名）仏壇。

トゥ˩シヌユー　[tu̥˩ʃinujuː]（名）大晦日。1年の最終の日の夜。おおつごもり。「歳の夜」の義。昔はトゥ˩シヌユー[tu̥˩ʃinujuː]によくフ˩ル˥マイ[ɸu˩ru˥mai]（饗応。御馳走）をやった。今は本土式になって、「年越しそば」を食べるようになった。トゥ˩シヌユーには家族揃ってフ˩ル˥マイを食べ、静かに寝ていい夢をみるのが楽しみであった。「除夜の瞳」を聞くことはなかった。夜遅くまで起きて凧作りなどをして過ごした。

トゥ˩シビ　[tu̥˩ʃibi]（名）消滅した行事。健康祈願祭か。

トゥ˩ジブトゥバ˥ー˩リ　[tu˩dʒibutuba˥ː˩ri]（名）離婚。
「妻夫分かれ」の義。トゥ˩ジブトゥ　バーリッ˥タ˩トゥー[tu˩dʒibutu baːrit˥ta ˩tuː]（夫婦が離別したそうだ）。

トゥ˩ヌ˥イムトゥ　[tu˩nu˥imutu]（名）お嶽を管理している場所。分神が祀られている。そこで祈願が行なわれ、豊年祭のトゥ˩ドゥ˥ミ[tu˩du˥mi]（終了、完了の行事）が行なわれる。

トゥ˩ムイ˥ウーヌシ　[tu˩mui˥ʔuːnuʃi]（名）竹富島の種取祭に演じられている組踊名。玻座間部落の組踊の名。毎年演じられている。仇討物。その他「忠臣身替り」などもある。

トゥ˩ルッ˥キ　[tu˩ruk˥ki]（名）「取り決め」の義か。種取祭のトゥ˩ルッ˥キ。
トゥ˩ルッ˥キ[tu˩ruk˥ki]の語義は、「約束」の義という。「しっかり約束せよ」の意味。野良に牛をトゥ˩リ˥ヒキ˩リー[tu˩ri˥çi̥ ki˩riː]と言ったり、トゥ˩ルッ˥ク˩ナ˥ー[tu˩ruk˥ku˩na˥ː]と言ったりする。「牛を逃がさぬよう、しっかり縄を木に縛っておきなさい」という。˩シュー˥イ　シェール　˩マンダー　シー˥ッタンティン　タ˩ナ˥ドゥイ　˩スナーッ˥タ　ナ˩ラヌ[˩ʃuː˥i ʃeːru ˩manda ʃiː˥ttantin ta˩na˥duija ˩sunaːt˥ta na˩ranu]（忌中でも、この種取祭はしなければならない）˩シュー˥イ　ペーユ　˩コーシッ˥ティ　ヤラン　タ˩ナ˥ドゥイヤ　˩スナーッ˥タ　ナ˩ラヌー[˩ʃuː˥i peːju ˩koːʃit˥ti jaran ta˩na˥duija ˩sunaːt˥ta na˩ranuː]（忌中の法事《不祝儀の拝事》を越してでも種取祭はしなければならない）トゥルッキには、先ず余興をする人を決め、使役（祭事に働く人）を決める。余興には、庭の芸能と神座の芸能がある。

˩トゥンジヌ・カン　[˩tundʒinu-kaŋ]（名）屋敷の神。˩キュー˥ヤ　˩トゥンジヌ・カン˥ヌ　ニン˩ガイ[˩kjuː˥ja ˩tundʒinu-kan˥nu niŋ˩gai]（今日は屋敷の神様への祈願です）

˩ナーッキ˥ヨイ　[˩naːkki˥joi]（名）11月祭り。各御嶽の氏子たちによって銘銘の御嶽で行なわれる。公民館側からは、グ˩シハナ[gu˩ʃihana]（御酒、初米）を供えるという。

˩ナージ˥カイカン　[˩naːdʒi˥kaikaŋ]（名）仲筋部落の会館。集会場。

˩ニシトータイサイ　[˩niʃitoːtaisai]（名）旧暦6月3日、4日に行なわれる祭祀。西唐

大祭。西唐御嶽で司が一晩、夜籠りして祈願する。みずのえ（壬）の日に行われる。

「ニン┐ガ「チ　[「niŋ┐ga「tʃi]（名）二月。

「ニンガチカザマ┐イ　[「niŋgatʃikadzama┐i]（名）旧暦２月頃、急に風向が変わり、時化となること。北風が吹き荒れること。「二月風回わり」の義。「ニン┐ガチカザマイヌ　キー「ドゥ┐リヤー　「チューイ　スナーッ┐タ　ナ「ラヌ[「niŋ┐gatʃikadzamai nu kiː「du┐rijaː「tʃuːi sunat┐ta na「ranu]（二月の風回わり時化が来ているので、注意しないといけない）

「ニントゥ　[「nintu]（名）年頭の挨拶。「年頭」の義か。元日の朝、家長から家族に対して述べられる寿ぎの言葉。親族、友人間でも交わされる。「ニントゥ┐　ッ「シャリレー[「nintu┐ʃ「ʃarireː]（年頭の挨拶を申し上げなさい）。「バン┐ダヤー　「ニン┐トーッ「シャリシタ┐ー[「ban┐dajaː「nin┐toː ʃ「ʃariʃita┐ː]（私たちは年頭の挨拶を申し上げた）。「ハイ┐サ　「ニン┐トー　ッ「シャリリヤ┐ー[「hai┐sa「nin┐toː ʃ「ʃaririja┐ː]（早く年頭の挨拶を申し上げなさい）

「ニントゥ┐　ッ「シャリル　ヒトゥドゥ　ホー┐ラサール「ユー[「nintu┐ʃ「ʃariru çi̥tudu hoː┐rasaːru「juː]（年頭の挨拶を申し上げる人が多いです）

「ニンブチャー　[「nimbutʃaː]（名）念仏者。世襲の家で、人が死ぬと「ニンブチャーが鐘を持参して、その家でずっと鐘を叩いた。これで村人に葬式のあることを知らせた。葬式の時は、「ニンブチャーは最後尾に居て道道ガーンガーンと鐘を叩いた。墓の掃除も部落の人が皆で手分けして当った。

「ネーレーカンドゥル　[「neːreːkanduru]（名）種取祭を創始した神様といわれている。「ネ┐ー「レという家に祭られている。ハ「ナッ┐ク[ha「nak┐ku]村のトゥヌイムトゥは旭氏の家である。

「ハー┐マ̃イ　[「haː┐maĩ]（名）あずき（小豆）。「赤豆」の義。12月の末頃から蒔きはじめ、一月頃までに蒔き終えた。

「バー┐リキー　[「baː┐rikiː]（連）帰った来たもの。「出戻」のこと。

トゥ「ナイヌ　カン┐チェーヤ　トゥ「ジブトゥ　バー┐リドゥ　「カイ┐リ「キー┐セー[tu「nainu kan┐tʃeːja tu「dʒibutu baː┐ridu「kai┐ri「kiː┐ʃeː]（隣家のカンチェーは夫婦離別して帰ってきているよ。「出戻」である）

「バイ┐ヤー　[「bai┐jaː]（名）御嶽《お願》の名。

ハ「ナッ┐クオン[ha「nak┐kuʔoŋ]（玻名城御嶽）より東の方へ行った所にあるハ「リワカ[ha「riwaka]という氏神といわれている。トゥ「ヌイ┐ムトゥ[tu「nui┐mutu]はア「ラ┐ヤー[ʔa「ra┐jaː]という家になっているという。

「バン┐ダーヤー　「バイヤーヌ　オン┐ビー　ッシェー[「ban┐daːjaː「baijaːnu ʔom┐biː ʃʃeː]（私たちは　バイヤー御嶽の氏子だよ）

バ˩キトゥルン [ba˩kituruŋ]（名）長方形の膳。祭祀用の供物を運ぶのに用いる。巾約40センチ、長さ約60センチ。高さ約５センチの長方形のお膳。祝儀や村の祭祀に必要な供物の一式をとり揃えて運ぶのに用いる膳のこと。

˩バ˥ジャオン [˩ba˥dʒaʔoŋ]（名）御嶽の名。

ハッ˩カ [hak˩ka]（名）墓。墓地。亀甲墓。

ハッ˩カユー˥ ウ˩ガ˥イ˩ ˩クー[hak˩kaju:˥ ʔu˩ga˥ĩ˩ku:]（墓を拝んできなさい）。

ハッ˩カ˥ ウ˩ガ˥イ˩ナードゥ ハ˩リッ˥タラー[hak˩ka˥ ʔu˩ga˥ĩna:du ha˩rit˥tara:]（墓を拝みに行ったのかなあ）。

バッ˩タ˥イロ˩ー˥ [bat˩ta˥iro˩ĩ]（名）ねんねこ。「綿入れ」の義。˩ウヤッタラー˥ バッ˩タ˥イロ˩ー˥ ッシハリヤー[˩ʔujattara:˥ bat˩ta˥iro˩ĩ˥ ʃʃiharija:]（上から綿入れ《ねんねこ》を着て行きなさい）。

ハ˩ナッ˥クヌ・トゥヌイムトゥ [ha˩nak˥kunu-tunimutu]（連）ハ˩ナッ˥クー族の信仰する神を祀り、管理しているところ。その家。旭氏の家で祀られているという。

˩パフ˥キー[˩paɸu̥˥ki:]（名）煙草の吸い殻を入れる竹筒。煙草盆に据え付けてある竹筒の吸い殻入れ。˩パフキナー˥イ タ˩ブ˥ヌ フ˩ケ˥ル アトー イ˩リリヤ˥ー[˩paɸu̥kina:˥i ta˩bu˥nu ɸu̥˩ke˥ru ʔato: ʔi˩ririja˥:]（竹筒に煙草を吸った後の吸い殻を入れなさい）。

ハ˩マウリ [ha˩mauri]（名）昔は、葬式のとき、葬列に参加した人は、いったん浜に降りて海水で足を洗い、身を清めてから帰宅したという。葬式から直接帰宅しなかったという。

ハ˩ラ˥イ˩シ˩トゥ [ha˩ra˥ĩʃi̥˩tu]（名）妊婦。「孕み人」の義。ハ˩ラ˥イ˩シトゥヌドゥ ˩ヤー˥サ ミ˩ラ˥リ˩チョッ˥ター[ha˩ra˥ĩʃi̥tunudu ˩ja:˥sa mi˩ra˥ri˩tʃot˥ta:]（妊婦「孕み人」がたくさん見えるよ）

ハ˩ラ˥ウン [ha˩ra˥uŋ]（名）妊娠する。「はらみ」（はらみ）の義。孕むこと。ハ˩ラ˥イ˩˥ドゥ ˩ル˥ー[ha˩rai˩du ˩ru˥:]（妊娠している。孕んでいる）。ハ˩ラ˥イ˩˥ドゥ ˩ダ˥ー[ha˩rai˩du ˩da˥:]（妊娠しているよ。孕んでいるよ）。˩メー˥ダ ハ˩ラ˥ー˩ヌー[˩me:˥da ha˩ra˥ĩ˩nu:]（また孕まない）ハ˩ラ˥ウ˩スニ˥ヤッタ バ˩タ˥ー ˩フー˥シャ ˩ナリドゥ˥ン ナッティヤー[ha˩ra˥ũ˩suni˥jatta: ba˩ta˥: ˩ɸu:˥ʃa˩nari˥dun nattijə:]（孕んだら腹が大きくなる）。バ˩ナ˥ヤランバー ハ˩ラ˥イ˩スー トゥ˩ナリヌマイチェー˥マー ハ˩ラ˥ウ˩ン˩ドーレ˥ー[ba˩na˥jaramba: ha˩rai˥su: tu˩narinu maitʃe:˥ma: ha˩ra˥ũn˩do:re˥:]（私でも妊娠するのだから、隣のマイチェーマーも妊娠するよ）。ハ˩イ˥サー ハ˩ラ˥イ˩ー ム˩チ˥シティー ˩ファー˥ ナ˩サー˥ハドゥナリーヤ ハ˩イ˥サー ˩ファーユ˥ ナ˩シ[˩hai˥sa ha˩ra˥ĩ: mu˩tʃi˥ʃi̥ti: ˩ɸa:˥na˩sa:˥hadu nari:ja ˩hai˥sa: ˩ɸa:ju˥ na˩ʃi]（早く妊娠して子供を生んだ方がよいので、

《生まないといけないから》早く子供を生みなさい)

バ˩リ˥ビル [ba˩ri˥biru] (名) にんにく (大蒜) が発芽すること。˩ピ˥ン[˩pi˥ŋ] (大蒜) が発芽することを祈願することを、バ˩リビルヌ・ニガイ[ba˩ribirunu-nigai] (大蒜発芽の願い) といい、種取祭の第一日目の行事は大蒜が発芽することを祈願する儀式という。

バ˩リ˥ビルヌ・ニガイ [ba˩ri˥birunu-nigai] (名) 種取祭の第一日目に、大蒜の発芽を祈願して行なわれる儀式。六時頃から始まり、第二日目はマ˩ミナ[ma˩mina] (もやし) の祈願。これを˩ムイムイヌ・ニガイ[˩muimuinu-nigai] (もやしの祈願) という。

˩ハンツメ [˩hantsume] (名) ˩ジー˥キョンギンの中に出てくる「イモ (芋) の願い」のこと。˩ハンツメヌニンガイ[˩hantsume nu niŋgai]ともいう。

˩ピー˥ナサン [˩piː˥nasaŋ] (形) 貧しい。貧乏である。˩ノー˥シ フ˩ドゥンバーン ヤー˥ヌ ˩ピー˥ナサリヤ ウ˩ヤッタヌ ガッコー˥イヤー ハ˩ラ˥サルヌー[˩noː˥ ʃi ɸu˩dumbaːɲ jaː˥nu ˩piː˥nasarija ʔu˩jattanu gakkoː˥i jaː ha˩ra˥sarunu] (いくら成長しても、家が貧乏だから、上の学校へはやれない)

˩ピー˥ヌ・˩カン [˩piː˥nu-˩kaŋ] (名) 火の神。竈の神様。˩ピー˥ヌ˩カンンヌ˥ ニン˩ガイ[˩piː˥nu˩kannu˥ niŋ˩gai] (火の神への祈願、竈神の祈願)。火の神は竈の後に石を三個安置して拝む。海の石、山の石、野原の石の三個を揃えて、その前に香炉を置いた。子供が生まれたら鍋釜の墨、鍋墨を子供の額につけた。ム˩ムッ˥チャ ヒ˩キ[mu˩mut˥tʃa çi̥˩ki] (百歳付け) という。

˩ピーヤ˥チー [˩piːja˥tʃiː] (名) 煙草盆の火入れ。「ひばち (火鉢)」の義か。小さな火鉢。˩ピー˥ヤ˩チ˥ナー ˩ピー˥ トゥリ˩クー[˩piː˥ja˩tʃi˥naː ˩piː˥ turi˩kuː] (火鉢に火を取って来い) ˩ピー˥ イリレー ˩アイ˥ラードゥ タ˩ブ˥ヤ フ˩カ˥イ˩ルー[˩piː˥ ʔirireː ˩ʔai˥raːdu ta˩bu˥ja ɸu̥˩ka˥i˩ruː] (火を入れなさい。そうしたらこそ煙草は吹かれる《吸われる》)。

ヒ˩カ˥シマーシ [çi̥˩ka˥ʃimaːʃi] (名) あやすこと。「なだめすかす」の義。˩ナーサンヨー˥シ ヒ˩カ˥シマーシ シリヤー[˩naːsaɲjoː˥ʃi çi̥˩ka˥ʃimaːʃi ʃirijəː] (泣かさぬよう、あやしなさい)

ヒ˩カ˥ナウン [çi̥˩ka˥nauŋ] (動) 育てる。養う。養育する。˩ビ˥ドーンファーヤ ヒ˩カ˥ナイヤッサ ダ˩ルー[˩bi˥doːŋɸaːja çi̥˩ka˥naijassa da˩ruː] (男の子は育てやすい)。˩コー˥ネーヤ ˩デージッ˥ティ ヒ˩カ˥ナイヤッサーン[˩koː˥neːja ˩deːdʒit˥ti çi̥˩ka˥naijassaːŋ] (男児は育てやすい)

ヒ˩キダチ [çi̥˩kidatʃi] (名) 朔日。月の第一日。「月立」の義。˩ザー˥トゥク[˩dzaː˥tu̥ku] (床の神) を拝む日。旧暦のヒ˩キタチと˩ジュー˥ゴニチ[˩dʒuː˥gonitʃi] (十五日。月の半ばの日) に床の神を拝む。

ヒ「ク˥イ̃　[çi̥「ku˥ĩ]（名）種取祭の余興のリハーサル。試演会。舞台総稽古。竹富島の種取祭は、本番の三日前の日に行なわれる。「仕組み」の義より転じたもの。

「キュー˥ヤ　ヒ「クイ̃「トゥー[「kjuː˥ja çi̥「kuĩ「tuː]（今日は試演会だそうだ）。「キュー˥ヤ　ヒ「クイ̃　シルンテー˥ラー[「kjuː˥ja çi̥「kuĩː ʃirunteː˥raː]（今日はリハーサルをするよ）

ヒ「トゥダー̃˥　[çi̥「tudaː̃]（名）ひとだま（人魂）。ヒ「トゥダー̃ヌドゥ˥　タ「チトゥー[çi̥「tudaː̃nudu˥　ta「tʃituː]（人魂が立つそうだよ）。

ヒッ「トゥ˥・ナン「カ　[çi̥t「tu˥-naŋ「ka]（名）第一七日忌。フ「タ˥・ナン「カ　[ɸu「ta˥-naŋ「ka]（第二七日忌）。「ミー˥・ナンカ　[「miː˥-naŋka]（第三七日忌）。「ユー˥・ナンカ　[「juː˥-naŋka]（第四七日忌）。イ「チ˥・ナンカ　[ʔi「tʃi˥-naŋka]（第五七日忌）。「ンーナンカ　[「nː-naŋka]（第六七日忌）。「シンジュ˥クー　[「ʃindʒu˥kuː]（四十九日忌）。「ヒャー˥ク・ニ「チー　[「çaː˥ku-ni「tʃiː]（第百日忌）。ユ「ヌリャー　[ju「nurjaː]（一年忌）などの法事がある。

「ヒャー˥クニ「チー　[「çaː˥kuni「tʃiː]（名）百日忌。人が死亡して後、百日目に当る命日にとり行われる法事。

「ピヤチ　[「pijatʃi]（名）ひばち（火鉢）。陶器に灰を入れて炭火などをおこし、体を温めるのに用いた一種の暖房器具。

「ピュー˥イ　[「pjuː˥i]（名）ひより。（日和）。よい天候。よい日。神事や仏事をとり行うのに適した日。

「キュー˥ヤー・「ジョー˥トヌ　ピューイデン　ナッ「ティ˥ヤー　[「kjuː˥jaː 「dʒoːt˥ tonu pjuːiden nat「ti˥jəː]（今日は、いい日になった）。

「ピューイ　トゥリー[「pjuːi turiː]（ひよりをとる。占って良い日を決める。日選りする）。

ピ「ル˥ユル　[pi「ru˥juru]（名）凧揚げに用いる糸。細い糸。芭蕉の上皮のウッ「カ˥バシャ　[ʔuk「ka˥baʃa]（糸芭蕉の上皮の繊維）を母親にねだって貰い、学校の休み時間などを利用して、それを木の枝につるし、縒りあげて作った細い縄。こより。

「ピン˥　[「pi˥ŋ]（名）にんにく（大蒜）。にんにく（大蒜）やもやしは、発芽する時期を自ら知っていると」いう。軒につるしておいても時がくれば水だけで、自然に発芽するからという。ピンは生命力が強く、畑に肥料を入れなくても育つといわれ、七回草取りさえすれば完全に立派な実ができるという。

ツ「サ˥　カイヨー　[s「sa˥ kaijoː]（草刈りが大切）。

「ピンガン　[「piŋgaŋ]（名）彼岸。春分・秋分の日。各家で先祖供養を行なう。仏事の一種。「ピンガン˥ムチ　[「piŋgam˥mutʃi]（彼岸餅）を作り、御重にカマボコ、煮物

などを詰めて供える。

「**ピン┐ガンヌ・ム「チャ~**　[「piŋ┐gannu-mu「tʃaɪ̃] (連) 彼岸祭の際に作る餅。小さく握って作った餅。中にグ「マ　[gu「ma] (胡麻) の餡や麦の餡を入れて作った。

「**ファームリ┐・ウ「タ**　[「ɸaːmuri┐-ʔu「ta] (名) 子守り歌。「ファームリ┐ウタ　ヒカシッティー　「ヌバサードゥ　ヘゴサラ　ジョー┐トーニ　ヌンビヤー　「ファームリ┐ウタ　アンジ　ヒカシュー　[「ɸaːmuri┐uta çi̥kaʃitiː「numbasaːdu heːgosara dʒoː┐toːni numbijaː「ɸaːmuri┐uta ʔandʒi çi̥kaʃeː] (子守り歌を聞かせて寝かすと、よく寝るから、子守り歌をうたって聞かせなさい)。

「**フイ**　[「ɸui] (名) ひえ (稗)。イネ科の植物。種子は三角形の細い粒で食用となる。荒地にもよく生育するので、田地のない所で栽培された。「フィヌ┐・ムチ[「ɸuinu┐-mutʃi] (稗で作った餅)。

「**フイヌ┐・ムチ**　[「ɸuinu┐-mutʃi] (名) 稗の餅。稗の実を煮て作った餅。

「**プイ**　[「pui] (名) 豊年祭。旧暦6月13日～14日 (新暦7月10日・11日) に行われる神行事。竹富島では、豊年祭は他島のように派手にはしないという。六ヶ所のお嶽 (お願) の司と氏子が決まっているから、氏子がお嶽を支えている。部落の役職員が六ヶ所のお嶽を拝殿すると氏子は彼らを持て成す。ミ「チウタ　[mi「tʃiuta] (道歌) を歌って役職の人たちが来ると氏子らが出迎えて接待する。それで一日目は終わる。二日目はトゥ「ヌ┐イムトゥでトゥ「ドゥ┐ミ　[tu「du┐mi] (終了、完了の行事) を行なう。「テー┐ドゥンヌ　プイヤー　「テー┐ドゥンナーヤー　「ンーチヌオン┐ヌ　アリーッティ　「ンーチヌオン┐ヌ　ヒ「カサヌ┐　オリッティ　マ「タ　ウヌ　ンーチヌ┐　ヒ「カサヌ　「オン┐ビヌドゥ　マ「タ　ソレゾレ　ンーチヌ　オン┐ヌ　「オン┐ビヌ　オリッティドゥ　「オン┐ビサーニ「ドゥ　ト┐ーッティ　「オン┐ユ　ムッ「チー　プイ┐ナーッキューヨイ　「シー┐ル「ユー　「プイ┐ヤヤー　「キューヌ┐　ル「ク┐ガツヌ　「ジュー┐サンニチハラ　「ジュー┐ヨッカス　ミ「ジヌヒヌ┐　トゥ「ラトゥ　ウー┐ヌ　ヒーサーニドゥ　「シールユー┐　アイティ　「ナーイチャーヤ┐　トゥ「ヌイムトゥナー┐イ　トゥ「ドゥミヌ┐　ニ「ガイ┐ドゥ　「シーティー┐　ウ「ワリルユー。

「**フー**　[「ɸuː] (名) えんぎ (縁起)。「果報」の義。シ「トゥ┐~ティー　「ビド~ヌ　オー┐リッスヤー　「トート┐ー　「フー┐ヌ　「アン┐メー　[ʃi「tu┐ːtiː「biːdoɪ̃nu ʔoː┐rissujəː「toːto┐ː「ɸuː┐nu「ʔam┐meː] (朝、男の人が来られたからさあさあ、えんぎ《縁起》がいいぞ。《果報があるぞ》)。「ミー┐ド~ヤ　シ「トゥ┐~ティ　「ットゥヌ　ヤー┐イ　「ハッ┐トゥ　キ「ラーリドゥ　ウリーヤ　「ミー┐ド~ヤ　ヒ「トゥヌ　ヤー┐イ　ハン「ナ (女は朝、他人の家へ行くのは嫌われているから、女は他人の家へ行くな) と言われていた。

フ「カンギ　[ɸu̥「kaŋgi] (名) えんぎ餅の一種。十五夜の日に作る。米の粉に、「フイ

[ɸui]（稗）で作った餅を入れて作った餅。

「ジュン¬グヤヌ　ム「チャ¬ー̃トゥ　フ「カン¬ギトゥヤメー　「ジュン¬グヤヌ　バシュヌ　「ピー¬ヌ　マイヤッ「タ¬ナー　カ「ザルムヌデン　ナッ¬ティヤー　[「dʒuŋ¬gujanu mu「tʃa¬ã: tu ɸu̥「kaŋ¬gitujame:「dʒuŋ¬gujanu baʃunu「pi:¬nu maijat「ta¬na: ka「dzarumunuden nat¬tijə:]（十五夜の餅とフカンギは、もう、十五夜のときの火の神に供えるものだったよ）。

ブ「ガ¬リ「ノーリ　[bu「ga¬ri「no:ri]（名）「疲れなおし」の義。慰労会。畑仕事などの後に飲食すること。

ブ「ガ¬リノーリヌ　グ「シ¬　カミ「リ　[bu「ga¬rino:ri nu gu「ʃi¬ kami「ri]（疲れなおしのお酒を頂戴しなさい）。ブ「ガ¬リ「ノーリ¬　シラー　[bu「ga¬ri「no:ri ʃira:]（慰労会をしよう）。

フ「タ・¬ナン「カ　[ɸu̥「ta-¬naŋ「ka]（名）二七日忌。人が死亡して後、第二週目の命日に行われる法事。

フ「トゥイ　[ɸu̥「tai]（名）ほとけ（仏）。仏像。

フ「トゥイ¬　ウ「ガ「ã̃イヤ¬ー　[ɸu̥「tui¬ ʔu「gaã̃ja¬:]（仏様を拝みなさい）。フ「トゥイ¬　ウガ「ã̃イー　[ɸu̥「tui¬　ʔuga「ã̃i:]（仏様を拝め）。

フ「トゥイ¬　ナ「リ¬ドゥ　「ナッティ¬ヤー　[ɸu̥「tui¬ na「ri¬du「natti¬ja:]（《死者が何年もたって》仏になっているよ）。

フ「ドゥンブン　[ɸu「dumbuŋ]（動）成長する。体が育つ。

「タンカークッ¬カサーニ　「カンディ¬　フ「ドゥンビッタチョッ¬ター　[「taŋka:kuk¬ kasa:ni　「kandi¬　ɸu「dumbittatʃot¬ta:]（誕生日が来るうちにこんなに成長したよ）。フ「ドゥンバヌチョッ¬タ　[ɸu「dumbanutʃot¬ta:]（成長しない）。フ「ドゥンバードゥウイヌ　ガッコー¬イン　ハ「ヤーサ¬リドゥ　「ラー[ɸu「dumba:du　ʔuinu　gakko:¬iŋ ha「ja:sa¬ridu「ra:]（《成長したらば上級学校へも行かせるのだぞ）。フ「ドゥンバナ¬ー　[ɸu「dumbana¬:]（成長しなさいよ）。

フ「ル¬マイ　[ɸu「ru¬mai]（名）大晦日の夕方、元旦の朝にいただく御馳走。お座敷でいただく御馳走。「振る舞い」の義か。戦前は組を作って豚をつぶし、分け合って塩漬けにし、保存して正月の御馳走に使った。残りは冬期を通して塩漬の豚肉を少量ずつ切り取って食した。「ション¬ガチフルマイ　[「ʃoŋ¬gatiʃiɸurumai]（正月御馳走）は待ち遠しいものであった。

「ブンガシャヌ¬パー　[「buŋgaʃanu¬pa:]（名）くわずいもの葉。「ブンガシャ[「buŋgaʃa]（くわずいも）お盆の三日目の「送り」（精霊送り）の日に、仏壇に供えた供物のお初を少量ずつ取り入れて包み、先祖霊の土産とするのに用いた植物の葉。ク「トゥシヌ　ショー¬ローヤ　「ブジニ¬　ッ「カシャイ　ミッカカン　ヒコサラ¬　ッ「

カ˥ナリオリ　ミーハイ˩ユー˥　マタ　˩エン˥ヌ　˩ショーロー˥ヌ　ブッ˩カ˥ナイヤー　ヌーサラ　˩ガン˥ジュ　シーオーリティ　ファーマーユー　ミ˩マ˥モーリトー˩リ　˩トゥーサヌ　カルイ　ナー˥サヌ　カルイ　カ˩ルイ˥シキオー˩リー（今年の精霊（お盆）は無事に家に案内され、三日間養われ、孝養されていただき、ありがとうございます。また来年のお盆の養いはずっと健康（頑丈）であられて、子や孫を見守って下さい。遠方からの嘉例、長さの嘉例をお祈り下さい）と唱えて精霊送りをするという。

˩ボー˥レダーリ　[˩boː˥redaːri]（連）よかったねえ。˩ボー˥レダーリ　ン˩マサル˥ー̃ヌ　˩ヤー˥サ　ッ˩コーレスヌ˥シェー　[˩boː˥redaːri m˩masaru˥ɪ̃nu ˩jaː˥sa k˩koːresunu˥ʃeː]（よかったねえ、おいしいものをたくさん作ってあるねえ）。

˩マーシュ˥ウサイ　[˩maːʃu˥ʔusai]（名）床の間に供える塩。塩の盛りつけ。シ˩ル˥マーシュ　˩カイ˥マーシュ　˩カイ˥マーシュ　カザレー[ʃi˩ru˥maːʃu ˩kai˥maːʃu　˩kai˥maːʃu kadzareː]（白い塩、美しい塩を供えさい）。ク˩トゥシャー　ミードゥシヌ　ション˥ガチユ　ンカイ　マ˩ター　ヤー˥ニンジュ　キ˩ナイニンジュ˥　タ˩ビナ˥ブルー　˩ファー˥ヌメーン　˩ケー˥ラヌ　˩ケンコー　アリー˥ヒティ　ク˩ヌ　イチネンジューヤ　イー˥クトゥ˩バー˥イ　˩アルカシ˥トー˩リー　[kuˬ˩tuʃijaː miːduʃinu　ʃoŋ˥gatʃiju ŋkai ma˩ta jaː˥nindʒu ki˩nainindʒu˥ ta˩bina˥buruː ˩ɸaː˥nu meːŋ　˩keː˥ranu ˩keŋkoː ʔariː˥çitiː ku˩nu ʔitʃinendʒuːja ʔiː˥kutu˩baː˥i ˩ʔarukaʃi˥toː˩riː]（今年は新年の正月を迎え、また家族、家内の皆、旅にいる子供たちも、みんな健康であって、この一年中は善いことばかりあらしめて下さい）と祈願する。その後に˩マーシュ˥ウサイをいただいた。

˩マーッタ　[˩maːtta]（名）桶の上に十字に組んだ台木で、石臼を載せるのに用いるもの。豆腐や餅を作る際に大型の桶の上に　˩マーッタ　[˩maːtta]を嵌(は)め、その上に石臼を載せて、一晩水に漬けた大豆や糯米を碾くのに用いた。

˩マ˥ー˩リャ　[˩ma˥ː˩rja]（名）毛毬。鞠。昔はソテツ（蘇鉄）の花（毛状のもの）で鞠を作った。　˩タイ˥ワンハラドゥ　グ˩ム˥マーリャヌ　˩キー˥シェー　[˩tai˥waŋharadu gu˩mu˥maːrjanu ˩kiː˥ʃeː]（台湾からゴム鞠は来たのだ）。正月には女の子は道で毬つきをして遊んだ。

˩マクシャハリ　[˩makuʃahari]（名）種取祭の舞台余興の行われる三日前にその作業が行われる。「テント張り」のこと。「幕舎張り」の義か。昔は　タ˩ルッキ　[ta˩rukki]（垂木）、トゥ˩マー[tu˩maː]（苫）、すすき（薄）、船の帆などを拠出して、張った。材料はすべて割当て制であった。縄も割り当てた。

マ˩ジュ˥ー̃ヌ　[ma˩dʒu˥ɪ̃nu]（名）ゆうれい幽霊（化け物）。「蠱物（まじもの）」の義。災厄が人に及ぶようになる霊。魔物のこと。　マ˩ジュ˥ー̃ヌヌ　キ˥ドゥ　ウリーヤ　ウナー　˩サン˥ユー　ユイウ˩キー　[ma˩dʒu˥ɪ̃nunu ki˥du ʔuriːja ʔunaː ˩saɲ˥ju

juiu˩kiː]（悪霊（まじもの）が来ているから、そこに魔除けのサンを結っておきなさい）。ヤ˩ナ　マジュ〜ノ）[ja˩na　madʒuĩnoː]（他人を罵って、「悪霊ものめ！」という）。

マ˩タ˥ダビ　[ma˩ta˥dabi]（名）洗骨すること。一度埋葬し、3年または7年目に洗骨する。埋葬した骨を取り出してきれいに洗い、骨瓶に納めて亀甲墓に納める。現在は火葬にする人が多い。

マ˩ミナ　[ma˩mina]（名）もやし。ク˩マ˥イ　[ku˩ma˥i]（緑豆）を原料として作られる。豆粒を水に浸して発芽させたもの。白色で食用に利用される。˩ムイムイ[˩muimui]（もやし）ともいう。

マ˩ミン˥ドー　[ma˩min˥doː]（名）道路の名。河上家の前の十字路のこと。昔は十五夜の日に、そこで綱引きの行事が行われた。˩サン˥ケー　[˩saŋ˥keː]（桟敷）を設けて部落の長老や司たちが座し、綱引きの行事を参観したところ。綱引きは、東と西に分かれて引いた。

マ˩リルン　[ma˩riruŋ]（動）生れる。子供が生れる。˩ファー˥ヌドゥ　マ˩リシター[˩ɸaː˥nudu　ma˩riʃi̥taː]（子供が生れた）˩メー˥ダ　マ˩ルヌー　[˩meː˥da ma˩runuː]（まだ生れない）、マ˩リル　ファー˥ヤー　ッ˩シェ〜˥ドゥ　マリ˩ラー　[ma˩riru ɸaː˥jəː ʃ˩ʃẽː˥du mari˩raː]（生れる子は、女の子が生れるね）。˩コー˥ネーヌ　マリスニヤッター　˩ヨイ˥　シ˩ルン˥ティ　ウイッカサーニドゥ　˩コー˥ネーヤ　マルナーッ˩シェー˥ヌ　マリ˩チョッ˥ター　[˩koː˥neːnu marisunijattaː ˩joi˥ si˩run˥ti ʔukkaisaːnidu ˩koː˥neːja manunaː ʃ˩ʃeː˥nudu mari˩tʃot˥taː]（男児が生れたら祝いをしようと思っていたのに男児は生れずに、女児が生れたよ）。

˩マン˥サン　[˩man˥saŋ]（名）満産、出産祝い。˩キュー˥ヤー　˩マンサンヨイ　ティ˥ラー　˩アイ˥ティ　˩ナーヤ　ノーッ˥ティドゥ　ヒ˩ケーリヤ˥ー　˩ハー˥ウジヌドゥメーヤー　マッ˩チュー˥ティドウ　ヒケー˩ルー˥　ガッ˩コー˥ヌナーヤー　˩シンユーティドゥ˥　ヒ˩ケールー[˩kjuː˥jəː ˩mansanjoi tei˥raː ˩ʔai˥ti ˩naːja noːt˥tidu çi̥˩keːrija˥ː ˩haː˥udʒinudumeːjəː mat˩tʃuː˥tidu çi̥keː˩ruː˥ gak˩koː˥nu naːjəː ˩ʃiŋjuːtidu˥ çi̥˩keːruː]（今日は出産祝いだそうだね。それで、名前は何とつけた？先祖様の名（童名）は、マッチュ（松）とつけました。学校の名は親雄とつけました）。

˩ミー˥・ナンカ　[˩miː˥naŋka]（名）三七日忌。人が死亡して後、三週目の命日にとり行われる法事。

ミ˩ジヌハチ　[mi˩dʒinuhatʃi]（名）若水。「水の初」の義。正月の元日の朝、若水で洗顔すると長寿になるといわれていた。

ミ˩ジヌハチユー˥　フニ˩クー　[mi˩dʒinu hatʃijuː˥ ɸuni˩kuː]（水の初《若水》を汲んできなさい）。最初に若水を汲むとき、未明に家を出て、井戸の中に小石を三個投

げ入れ、水の神を起こし、その後に水を汲んだという。この習俗は大正期ごろまであったという。

ミ「シャ¬ク [mi「ʃa¬ku]（名）御嶽で神前に供える酒。どぶろく（濁酒）。米を一晩水に漬けてふやかし、石臼で碾き、発酵させて作った。昔は健康で若い女性が米を噛んで出したものを発酵させて作ったという。歯を塩できれいに磨かせて米を噛ませたという。

ミ「ジンゴイ [mi「dʒiŋgoi]（名）水肥。豚舎から出る汚水を肥料として用いるもの。

ミ「チ¬ンザシ [mi「tʃi¬ndzaʃi]（名）「道出し」の義。新生児が生れて1週間たつと祖母が新生児を抱いて、弓の矢と「カーヌピー [kaːnupiː]（古着を裂いて綯った縄につけた火。「皮の火」の義か）をつけて、親類門中を回り、先祖を拝ませる儀式。ク「ニンブ¬ [ku「nimbu]（九年母。シークヮーサー）の小枝、弓矢、「カーヌピーを持って親類門中を回る。

「ミッ¬カミー [「mik¬kamiː]（名）葬式後三日目に墓参りして死者の名を呼ぶ儀式。死者の復活を祈って、その名前を大声で呼ぶという。墓前に水を供え、供物を供えて名前を呼ぶ。

「ムイジル [「muidʒiru]（名）消し炭。まきの熾（おき）を消した炭。「ムイジルユー¬ トゥリー カ「クン¬グ シー ウ「キー [「muidʒiruju:¬ turiː ka「kuŋ¬gu ʃiː ʔu「ki]（消し炭を取って格護しておきなさい。大切に保存しておきなさい）。「ムイジルユー¬ トゥリー カ「クン¬グ シー ウカードゥ ア「トゥーラ¬ン ヒ「カーイリヤ¬ー [「muidʒiruju:¬ turiː kḁ「kuŋ¬gu ʃiː ʔukaːdu ʔa「tuː¬raŋ çi̥「kaːrija¬ː]（消し炭を取って保存しておくと、後からでも使えるよ）。

「ムイムイヌ・ニガイ [「muimuinu-nigai]（名）もやしの祈願。種取祭の第2日目に行われる儀式。「ムイムイ [「muimui]（もやし）は一般的に。ク「マ¬イ[ku「ma¬i]（緑豆）で生産された。

ム「ク¬ー「ジャ [mu「ku¬ː「dʒa]（婿）。花婿。ム「ク¬フー「ジャ [mu「ku¬ɸuː「dʒa]（婿）ともいう。

ク「ヌ ヒトゥドゥー バナ¬ー ムッ「クユー [ku「nu çitudu: bana¬: muk「kujuː]（この人が私の婿です）。

ム「チ [mu「tʃi]（名）もち（餅）。糯米を一晩水に漬け、石臼で碾き、布袋に入れて水分を切ったものを成形して芭蕉の葉で包み、蒸籠に入れて蒸しあげたもの。祝儀や法事などに応じた形や色の餅を作った。

ム「チ¬ドゥ「トゥー [mu「tʃi¬du「tuː]（連）妊娠している人。妊婦。 トゥ「ナイヌ¬ カ「メ¬ーヤー ムチドゥッ「トゥー [tu「nainu¬ ka「me¬ːjaː mu「tʃi¬dut「tuː]（隣のカメさんは妊娠している）。バッ「タ¬ヌドゥ 「メー¬ダ ミ「ラ¬ルン「チョー

[bat˩ta˥nudu ˩meː˥da mi˩ra˥run˩tʃoː]　(おなか《腹》がまだ見えないんだよ。「妊娠の徴候がまだ見られないんだよ」の意)。ハ˩イ˥サー　ム˩チ˥シティ　˩ファー　ナサー˥ハドゥ　ナ˩ルー　[˩hai˥saː muˈtʃi˥ ʃi̥tiː ˩ɸaː nasaː˥hadu na˩ruː]　(早く妊娠して子供を生まないといけない)。

ムッ˩コガヨイ　[muk˩kogajoi] (名) 婿通い。戦前までは、最初の子供は妻の里で出産した。新生児がある程度発育した後 (約6ヶ月後)、吉日を選んで夫の家に連れて行った。その間、婿は妻の実家に通い、妻の家の農業や家業を手伝った。旧暦12月の大晦日の晩は日を選ぶ必要がないといわれていた。

ム˩ヌクヤー　[mu˩nukujaː] (名)「もの乞い」の義。乞食。竹富島には乞食はいなかった。ハ˩タラナーッ˥ター　ム˩ヌ˥クヤー　ナルン˩ドー　[ha˩taranaːt˥taː mu˩nu˥kujaː narun˩doː]　(働かないと乞食になるぞ)。

ム˩ムッ˥チャヒキ　[mu˩mut˥tʃaçikiː] (名)「百歳付け」の義。新生児の額に鍋墨を付け、火の神に百歳の長寿を祈願すること (儀式)。新生児の祖母が付けた。

ム˩ルン　[mu˩ruŋ] (名) もろみ (醪)。醸造する前の酒のもと。麹を発酵させてアルコール分を発生させた液体で、酒粕の混在した状態のもの。ルムンを醸造用の鍋に入れて加熱し、蒸気を冷却器に通して酒を作った。

˩ムン˥ヌ・˩ヨイ　[˩mun˥nu-˩joi] (連) 麦の収穫後の祝い。昔は麦の収穫が終る4月頃にあったが、今は行われていない。消滅した行事の一つ。

˩メーッ˥カナイ　[˩meːk˥kanai] (副) はっきりと、バ˩タ˥ー　˩メーヒ˥カナイ　ミ˩ラ˥イ˩ドゥ˥ン　ナッティヤー　[ba˩ta˥ː ˩meːçi˥kanai mi˩ra˥i˩du˥n nattijəː] (腹がはっきりと《大きくなって》見られるようになったよ。「妊娠したことがはっきりとわかるようになった」の意)。˩メーッ˥カナイ　[˩meːk˥kanai]　とも発音される。

˩ヤー˥キナイ　[˩jaː˥kinai] (名) 所帯。世帯。˩ヤー˥キナイ　ム˩タ˥スンティドゥ　˩ア˥イラー　[˩jaː˥kinai mu˩ta˥suntidu ˩ʔa˥iraː] (所帯を持たせようと《独立させよう》している)。

キ˩ナイ˥　ム˩タ˥スン˩テ˥イラー　[ki˩nai˥ mu˩ta˥sun ˩te˥iraː]　(所帯を持たせようとしている)。

˩ヤーヌ˥ナー　[˩jaːnu˥naː] (連) 家の名。童名。先祖の名 (長男は直系の祖父の名を、長女は直系の祖母の名をもらってつける風習) をつける命名。ガッ˩コー˥ヌ・ナー [gak˩koː˥nu-naː] (学校の名)、(戸籍上の名。明治になって戸籍が作られるようになり、その戸籍に記載された名前。学校などの公的機関で用いられた名前) の対。˩カー˥カ˦ヌ　マ˩チュ˥ダー　[˩kaː˥ka ĩnu ma˩tʃu˥daː]　(河上家の松さん) のように呼ばれた。童名で呼ばれると親しみを感じるという。

˩ヤー˥ムトゥ　[˩jaː˥mutu] (名) 実家。里。「家元」の義か。生れた家のこと。分家よ

りみた「本家」のこと。「バー¬イ　ウ「マ¬ドゥ　「ヤー¬ムトゥ「ユー　[「baː¬i ʔu「ma¬du「jaː¬mutu「juː]（私はここが実家《家元、里》です）。
「ヤー¬ムトゥヤー　[「jaː¬mutujaː]　（本家）。

ヤ「ク　[ja「ku]（名）やく（厄）。
ヤ「クバレードゥ¬　シー「トゥー　[ja「kubareːdu¬ ʃiː「tuː]　（厄払いをするそうだ）。
ヤ「ク¬バレーヌ　ニンガイ「トゥー　[ja「ku¬bareːnu¬ niŋgai「tuː]　（厄払いの祈願だそうだ）。

ヤ「ナ¬ウ̃ヌ　[ja「na¬ũnu]（名）悪霊。「悪者」の義。ヤ「ナ¬ウ̃ヌヌ　「クッ¬ター　ナ「ラン¬バー　「サン¬ユー　ユイウ「キー　[ja「na¬ũnunu「kut¬taː naːram¬baː「saŋ¬juː juiu「kiː]（悪霊が来るといけないから、魔除けのサンを結っておきなさい）。

ヤマ　[jama]（名）お嶽。神を祀ってある所。竹富島には「ムー¬ヤマ　[「muː¬jama]（六箇所のお嶽があり、それぞれ氏子によって支えられている）。

「ユー¬・ナンカ　[「juː¬naŋka]（名）四七日忌。人が死亡して後、第四週目の命日にとり行われる法事。

「ユー¬ニンガイ　[「juː¬niŋgai]（名）新暦5月17日、旧暦では4月18日～19日の二日間行われる。四月大祭。

「ユーミ・ハラ¬スン　[「juːmi-hara¬suŋ]（連）嫁がせる。嫁に行かせる。　ミ「ドゥ¬ナーヌ　ファーユ　「ユーミ　ハラ¬スンテーラー　[mi「du¬naːnu ɸaːju「juːmi hara¬suntеːraː]（女の子《娘》を嫁に行かせる《嫁がせる》）。

「ユー¬ンカイ　[「juː¬ŋkai]（名）「世迎え」の義。毎年旧暦8月8日に決って行われる。「ユー¬　[juː]（「世」豊年満作の年の意）。ム「ヌックイ[mu「nukkui]（「もの作り」、農作物の意）が豊で、豊饒である年を迎える祈願のこと。

ユ「ヌ¬ク　[ju「nu¬ku]（名）麦焦がし。麦を炒り焦がして石臼で碾き、粉にしたものに黒糖を削って混ぜたもの。茶うけ、おやつに用いた。水で練って食べたりした。

ユ「ヌク¬・ムチ　[ju「nuku¬-mutʃi]（名）ユヌク餅。ユ「ヌ¬クムチェー　「マ¬ー「スー[ju「nu¬kumutʃeː「ma¬ː「suː]（麦焦がしを餡にした餅は美味である）。麦を炒り焦がして黒糖を削り、混ぜたものを餡にして作った餅。ユ「ヌク¬アン[ju「nuku¬ʔaŋ]（ユヌク餡）を入れた餅。

ユ「ヌリャ　[ju「nurja¬]（名）一周忌。人が死んで満一年目の命日に営む法事。一回忌。ユ「ヌ¬リャヌ　「キシ¬ター　[ju「nu¬rjanu「kiʃi̥¬taː]（一周忌がやってきた）。

「ユ¬ミ　[「ju¬mi]（名）嫁。息子の妻。ク「ヌ¬　シ「トー　バナ¬ー　ジ「ナンヌ　ユ¬ミ「ユー　[ku「nu¬ ʃi̥「toː bana¬ː dʒi「nanu ju¬mi「juː]（この人は、私の二男の嫁です）。

「ヨーヨムチ　[「joːjoːmutʃi]（名）米を煎って、それを石臼で碾いて粉にし、シ「ノ[ʃi「no]（篩）でふるって黒糖を加え、捏ねて作った菓子。美味であった。

「リュー¬カチラ [「rjuː¬katʃira]（名）西部落のシンボルである旗頭のこと。「亢竜」（登り竜）を象ったデザインの旗頭。旧暦8月15日の十五夜に行われる綱引きの行事の際に　マ「ミン¬ドー（道路名）に集まった。

「ンー・ナンカ [「nː¬naŋka]（名）六七日忌。人が死亡して後、第六週目の命日にとり行われる法事。

「ン¬ヌ「ダーッキー [「n¬nu「daːkkiː]（名）イモと糯米の粉を煮てこねた食べ物。

アッ「コン¬ナーユ　「バースヌヨー¬シ　「バーシシティ¬　ムッ「チマイヌクー¬ユ　イ「リシティ　ディー¬リーテイ　カイー　ム「ローヌドゥ　ン¬ヌ「ダーキッ¬ティ　アンズヨーン　ナル「ユー　ム「カ¬シェーメー　「クヌ　シマ¬ー　ドゥ「シ¬ー　ムッ「チマイヌ　ネーン¬ムヌ　ヤリッティ　キ「ザレー　タイ¬ガイ　メー　「ン¬ヌムチットゥ　「ン¬ヌ「ダーッキトゥ¬サーニドゥ　「シェールヨ¬ーニ　ナル「ユー　[ʔak「kon¬naːju「baːsunujoː¬ʃi「baːʃitiː¬ mut「tʃimainu kuː¬ju ʔi「riʃitiː diː¬riti kaiː mu「roːnudu n¬nu「daːkit¬ti ʔandzujoːn naru「juː mu「ka¬ʃeːmeː「kunuʃima¬ː du「ʃi¬ː mut「tʃimainu neːm¬munu jaritti: ki「dzareː tai¬gai meː「n¬numutʃitu「n¬nu「daːkkitu¬saːnidu「ʃeːrujo¬ːni naru「juː]（イモを炊いて糯米の粉を入れてこねて、こう盛ったのが、ンヌダーキと言う。昔はもう、この島はそれほど糯米がなかったので、祭には大概イモ餅とンヌダーッキとでやったようになっている）。

「ンー¬ヌムチ [「nː¬numutʃiː]（名）いも餅。いもを擂り、柏の葉で包んでセイロに入れ、蒸して作ったいも餅。

ム「カ¬シャー　「マイヌー　ネン¬ムヌ　ヤリッティ　「タイ¬ガイヌ　キ「ザロー　ンーヌ¬ムチドゥ　シェルヨニ　ナリ「ユー　ンーヌ¬ムチッテュ　ノヤー　「ンー¬ユドゥ　「サンガナサーニ　スイ¬シティドゥ　カッ「チャン¬ヌ　「パー¬ナー　イ「リッティ　ン¬ブ「シッ¬ティ　「アンガルッ¬トゥー　トゥ「リ¬ヤーシー　ウ「リ¬ドゥメー　「ン¬ーヌムチ　[mu「ka¬ʃijaː「mainuː nem¬munu jaritti: 「tai¬gainu ki「dzaroː nː¬numutʃidu ʃerujoːni nari「juː nː¬numutʃittjunojaː「nː¬judu「saŋganasaːni sui¬ʃitiduː kat「tʃan¬nu「paː¬naː ʔi「ritti m¬bu「ʃit¬tiː「ʔaŋgarut¬tuː tu「ri¬jaːʃiː ʔu「ridu¬meː「nː¬numutʃi]（昔は米がなかったので、大概の祭祀は、イモ餅でやったようになっている。イモ餅というのは、イモを擂りがねで擂って柏の葉に入れて、蒸して、蒸しあがると取り出して、それをイモ餅という）。

ン「バースン [ʔm「baːsuŋ]（動）びっくりさせる。驚かす。ヤ「ナ　マジュ~ノー¬　ヒ「トゥ　ンバーシ　[ja「na madʒuːnoː¬ çi「tu ʔmbaːʃi]（あの野郎！　ひとを驚かして！）。

ン「マサル¬~ヌー [m「masaru¬ːnuː]（名）ごちそう（御馳走）。「おいしいもの」の義。

ン「マサル¬~ヌドゥ　「ヤー¬サ　ッ「クレースヌ¬シェー　[m「masaru¬ːnudu「jaː¬sa

k「kureːsunu¬ʃeː]（おいしいものをたくさん作ってあるよ。「うまいもの」。）。

——分野（9）遊戯——

「アー¬ネ「トントン　[「ʔaː¬ne「tontoŋ]（名）かたぐるま（肩車）。人を両肩に跨らせてかつぐ（担ぐ）こと。

「アー¬ネ「トントン¬　シラー　[「ʔaː¬ne「tontoŋ¬ ʃiraː]（肩車をしよう）。

ア「スビドーラ　[ʔa「subidoːra]（名）遊び友達。遊び同士。遊び仲間。

ムッ「カ¬シヌ　ア「スビドーラデン　ナッ¬ティヤー　[muk「ka¬ʃinu ʔa「subidoːraden nat¬tijaː]（昔の遊び仲間ですよ）。

ア「スビドーラ　[ʔa「subidoːra]（名）遊び友達。

ア「スビドーラデン　ナッ¬ティヤー　[ʔa「subidoːraden nat¬tijaː]（遊び仲間、友達になっているよ）。ム「カ¬シヌ　ア「スビドーラデータ　ナッ¬ティヤー　[mu「ka¬ʃinu ʔa「subidoːradeːta nat¬tijaː]（昔の遊び友達であったよ）。バヤー　ムッ「カ¬シヌ　ア「スビドーラデッタ　ラ「ラー　[bajaː muk「ka¬ʃinu ʔa「subidoːradetta ra「raː]（我々は昔の遊び友達だったねえ）。

ア「スブン　[ʔa「subuŋ]（動）遊び。

「コー¬ナーイ　ア「スブナ　[「koː¬naːi ʔa「subuna]（ここで遊ぶな）。カー「ナー¬イアスベー　[kaː「naː¬i ʔasubeː]（あそこで遊べ）。タ「ロー¬ン　ア「スブ　シトゥヌ　ブラナーッ¬ティー　「ヲータン¬チャ〜ー　ドゥ　アスビーダー　[ta「roː¬ŋ ʔa「subu ʃi̥tunu bura naːt¬tiː「woːtan¬tʃaː̃du ʔasubiːdaː]（誰も遊ぶ人がいないので、貴方一人で遊んでいるのか）。「ヲ¬ー　[「wo¬ː]（貴方）。「ファー¬ナーヌ　メーヌドゥ　ア「スビスヌ¬シェー　[「ɸaː¬naːnu meːnudu ʔa「subisunu¬ʃeː]（子供たちが遊んでいる）。マ「ジョー¬ン　ア「スビタッテ¬ラー　[ma「dʒoː¬ŋ ʔa「subitatte¬raː]（一緒に遊びたい）。マ「ジョー¬ン　ア「スバディ¬ー　[ma「dʒoː¬ŋ ʔa「subadi¬ː]（一緒に遊ぼうよ）。「バン¬ダーヤー　バ「ショー¬サーニヤー　ア「スバヌー　[「ban¬daːja ba「ʃoː¬saːnija ʔa「subanuː]（私達は君たちとは遊ばない）。バ「シャー¬　ア「スブスニ¬ヤッター　バ「ヌ¬ン　ア「スブン　[ba「ʃaː¬ ʔa「subusuni¬ jattaː ba「nu¬ŋ ʔa「subuŋ]（君たちが遊ぶなら私も遊ぶ）。「ワー　[「waː]（あなた）。バ「シャー　[ba「ʃaː]（君たち）。バ「ノー　[ba「noː]（僕たち）。バ「ヌ　[ba「nu]（私）。バ「ナーヤ　[ba「naːja]（私は〜）。ア「スイタッ¬ター　ʔa「suitat¬taː]（遊びたかったら）。

ア「バ　[ʔa「ba]（名）魚名。オニオコゼ。体長は約20センチ。グロテスクな形態をしており、背びれに毒のある針を有している。保護色を持ち、岩と見誤って踏み、刺され

ることがある。刺されると激痛を伴う。この毒も「シュ¬イキ　[「ʃu¬iki]（モンパ）の葉を搗いて当て、毒消しに用いた。

ア「バ　[ʔa「ba]（名）魚名。オニオコゼ。体長は約20センチ。グロテスクな形態をしており、背びれに毒のある針を有している。保護色を持ち、岩と見誤って踏み、刺されることがある。刺されると激痛を伴う。この毒も「シュ¬イキ　[「ʃu¬iki]（モンパ）の葉を搗いて当て、毒消しに用いた。

ア「ヨー　[ʔa「joː]（名）凧の一種。凧の名の一。たけひご（竹籤）を十字形に結び、それに紙を張りつけただけで揚げる凧のこと。

ア「ヨー¬ユンタ　[ʔa「joː¬junta]（名）古謡の一つ。ア「ヨー　[ʔa「joː]ともいう。種取祭のときなどに歌われる。

「アンカンカー　[「ʔaŋkaŋkaː]（名）けんか（喧嘩）。「アン¬カン「カー¬　シッター　ナ「ラン¬スン「ガ¬ー　[「ʔaŋ¬kaŋ「kaː¬ ʃitta: na「ran¬suŋ「ga¬ː]（喧嘩をしたらいけないよ）。ク「ヌ　ファー　ヤ　メ¬ー　カ「ーリドゥ　ウリヤー　アン¬カン「カー¬　シールンドゥ「ラー　[ku「nu ɸaːja me¬ː ka「ːridu ʔurija: 「ʔaŋ¬kaŋ「kaː¬ ʃiːrundu「raː]（この子は少し変わっているから喧嘩するよ）。「アン¬カン「カー　スーナー　[「ʔaŋ¬kaŋ「kaː suːnaː]（喧嘩するな）。「アンカンカー¬　シー　「デージ¬デッタ「ラー　[「ʔaŋkaŋkaː¬ ʃiː「deːdʒi¬ detta「raː]（喧嘩をして大変だったよ）。

イ「ジナッ¬カー　[ʔi「dʒinak¬kaː]（副）一生懸命に。ア「スイタッ¬ター　イ「ジナッ¬カー　ア「スベー　[ʔa「suitat¬ta: ʔi「dʒinak¬ka: ʔa「subeː]（遊びたかったら一生懸命遊びなさい）。

イ「ジュッ¬サー　[ʔi「dʒus¬saː]（名）「魚草」の義。その草を搗いて汁をしぼり、海中に入れて魚が浮き上がってくるのを漁獲するのに用いる草。

イ「シュシ　[ʔi「ʃuʃi]（名）潮干狩り。

「キュ¬ヤヤー　「シュー¬ヌドゥ　ン「デシュッ¬ティヤー　イ「シュシナ　ハラ¬ディー　[「kju¬jaja: 「ʃuː¬nudu n「diʃut¬tija: ʔi「ʃuʃina hara¬diː]（今日は潮が干くから潮干狩りに行こうよ）。

「ウー$\tilde{\text{ー}}$ン　[ʔuːĩŋ]（動）泳ぐ。

「ウ¬イヤー　[「ʔu¬ijaː]（泳ぎなさい）。

「キュ¬ヤヤー　ア「ツァ¬リヤー　「ウ¬イティ　「クー　[「kju¬jaja: ʔa「tsa¬rija: 「ʔu¬iti 「kuː]（今日は暑いから泳いでこい）。マ「ジョーン　ウ¬イナ　ハ「ラ¬ディー　[ma「dʒoːŋ ʔu¬ina ha「ra¬diː]（一緒に泳ぎに行こう）。ア「ササル　ドゥン¬ナーユ　ウ「ミ　[ʔa「sasarudun¬naːju ʔu「mi]（浅い所で泳げ）。「バン¬ダーヤ　「キュ¬ヤー　「オ¬ー「ヌ　[「ban¬daːja 「kju¬jaː 「ʔo¬ː「nu]（私は今日は泳がない）。「ハイ¬サー　「ウー¬$\tilde{\text{イ}}$ヤー　[「hai¬saː 「ʔuː¬ĩjaː]（早く泳げよ）。「オン¬バー　「ウ¬ー「ナ　[「ʔom¬baː

「ʔu˥ː「na˥] (君は泳ぐな)。「ウーマ˥ディー [「ʔuːma˥diː] (泳ごうよ)。「ワー ウー˥ ˜「スニ˥ヤッター バ「ヌ˥ン ウー「˜ン [「waː ʔuː˥ː˜「suni˥jattaː ba「nu˥ŋ 「ʔuː「˜ːŋ] (君が泳ぐなら僕も泳ぐ)。「ウー˥ワン [「ʔuː˥waŋ] (泳いでも〜)。「ウ˥˜ シトー [「ʔu˥ː˜ʃitoː] (泳ぐ人〜)。

ウ「˜ー˜ゾ˜ー [ʔu「˜ːdzoː˜˥] (名) いいだこ (飯蛸)。体長約25センチ程の小型の蛸。これは、イ「ジュッ˥サの汁で酔ってもすぐ元気になる。他の魚類に比して酔いより醒めるのが早いという。

ウ「ディ˥カイ [ʔu「di˥kai] (名)「腕かけ」の義。腕相撲。 ウ「ディ˥ カイ「ラ [ʔu「di˥ kai「ra] (腕相撲をしよう)。

ウ「ディ˥ボー [ʔu「di˥boː] (名) 竹富島の種取祭に奉納される仲筋部落婦人会が演じる郷土芸能。 「ミー˥ドーヌ ウ「ディ˥ボー [「miː˥doːnu ʔu「di˥boː] (女性の腕棒踊り) という。庭の芸能。

ウトン [ʔutoŋ] (動) うたう (歌う)。

ウ「タ˥ イ「ジェー「ニー [ʔu「ta˥ ʔi「dʒeː「niː] (歌を歌ってごらん)。「ワ˥ー 「アン˥デ 「クイ˥ヌ アリーヤ 「ワー˥ ウター 「メー˥ シュトゥシュ˜ートウ イ「ジェ˥ー 「ニー [「wa˥ː「ʔan˥de「kui˥nu ʔariːja「wa˥ː ʔutaː「meː˥ ʃu̥tuʃũːtu ʔi「dʒe˥ː「niː] (君はあんなに声があるから、君の歌をもう一度歌ってごらん)。マ「ジョーン˥ ウ「タ イジャー [ma「dʒoːŋ˥ ʔu「ta ʔidʒaː] (一緒に歌おう)。ウター イ「ジャルヌ [ʔutaː ʔi「dʒarunu] (歌は歌えない)。「バン˥ダーヤー ウター イ「ジャヌー [「ban˥daːjaː ʔutaː ʔi「dʒanuː] (私は歌を歌わない)。ウター イ「ジャディ˥ー [ʔutaː ʔi「dʒadi˥ː] (歌を歌おうよ)。「タードゥ イジリヤ˥ー [「taːdu ʔidʒirija˥ː] (誰が歌っているか)。「ワ˥ー ウ「トース˥ニヤッター バ「ヌ˥ン ウトンドゥ「ラー [「wa˥ː ʔu「toːsu˥nijattaː ba「nu˥ŋ ʔutondu「raː] (君が歌うなら私も歌うよ)。「ノー˥シ ウターン 「ジョージェー˥ ナ「ラ˥ルヌ 「チョッ˥ター [「noː˥ʃi ʔutaːn「dʒoːdʒeː˥ na「ra˥runu「tʃot˥taː] (いくら歌っても上手になれない)。「ハイ˥サ ウ「タイヤー [「hai˥sa ʔu「taijaː] (早く歌えよ)。

「オーヌ˥・マーイ [「ʔoːnu˥-maːi] (連) このあたり。この辺。

「オーヌ˥ マーイヌ 「ファー˥ナーヌ 「タイショー˥デーッタ ナッティヤー [「ʔoːnu˥-maːinu「ɸaː˥naːnu「taiʃoː˥deːtta nattijaː] (この辺の子供の大将であったよ)。

「オンダー [「ʔon˥daː] (名) 海水浴。(石垣方言からの借用語か？)。「オンダー˥ シレー [「ʔoːdaː˥ ʃireː] (海水浴をしなさい)。

カッ「キ [kak「ki] (名) かけごと (賭事)。

カッ「キ˥ シルン「ダ˥ー[kak「ki˥ ʃirun「da˥ː] (かけごと《賭事》をする)。カッ「キ˥サーニ マ「キタチョッ˥ター[kak「ki˥saːni ma「kitatʃot˥taː] (賭事で負けてしまった)。

カッ˩キ [kak˩ki]（名）ゆびきり（指切り）。

カッ˩キー˥ シ˩ラー[kak˩kiː˥ ʃi˩raː]（指切りをしよう）。

カ˩ブヤナー [ka˩bujanaː]（名）凧の一種。

ク˩ジ [ku˩dʒi]（名）くじ（籤）。

ク˩ジ˥ ヒ˩クッカ˥サーニドゥ ア˩タリチョッ˥ター[ku˩dʒi˥ çi̥˩kukka˥saːnidu ʔa˩taritʃot˥taː]（籤を引いたところ、当っているよ）。ク˩ジ˥ ヒ˩クッター˥ドゥ ア˩タリチョッ˥ター[ku˩dʒi˥ çi̥˩kuttaː˥du ʔa˩taritʃot˥taː]（籤を引いたところ、当っているよ）。

ク˩トゥ [ku̥˩tu]（名）こと（琴）。

ク˩トゥ˥ ヒカ˩イ˜[ku̥˩tu˥ çi̥ka˩ĩː]（琴を弾きなさい）。ク˩トゥ˥ ヒケ˜ドゥ ウ˩ムッ˥サ˩チョーッ˥タ[ku̥˩tu˥ çi̥kẽːdu ʔu˩mus˥sa˩tʃoːt˥ta]（琴を弾いたので、おもしろかったよ）。ク˩トゥ˥ヤー ˩キュー˥ヤ ヒ˩キッターネー˩ヌ[ku̥˩tu˥jaː ˩kjuː˥ja çi̥˩kittaːneː˩nu]（琴は、今日は弾きたくない）。

ク˩マ [ku˩ma]（名）こま（独楽）。

ク˩マ˥ マーシェー[ku˩ma˥ maːʃeː]（こまを回しなさい）。

グ˩ル˥˜トゥッカイ [gu˩ruĩtukk'ai]（名）桜貝を集めて、一掴み手の甲に乗せて上に投げあげ、その間に片手で手のひらを広げて落下する貝を受け、その数を競う遊び。女児の遊び。グ˩ル˥˜トゥ[gu˩ru˥ĩtu]は「貝の名」。ッカイ[ᵏk'ai]は「掴み」の意であろうとのこと。グ˩ル˥˜トゥ ヒカイ˩ヤ˥ー[gu˩ru˥ĩtu çi̥kai˩ja˥ː]（貝取り遊びをしよう）

˩ゲーッサ [˩geːssa]（名）遊びの一種。

サ˩ビ [sa˩bi]（名）じゃんけん（石拳）。

サ˩ビ˥ シ˩ラ[sa˩bi˥ ʃi˩ra]（じゃんけんをしようよ）。男児のサビは、親指と人差指（食指）と小指でやった。親指は一差指に勝ち、一差指は小指に勝つルールである。シー!! シー!!と声を出しながら指を出して勝負を決めたという。勝った者は負けた者の手を打って遊ぶ。女児は、グー、チョキ、パーで遊んだという。親指は鶏で小指は虫の意であったという。

˩サンシン [˩saŋʃiŋ]（名）三味線。

˩サンシンユ˥ ヒッ˩キオー˥リヤー[˩saŋʃiŋju˥ çi̥k˩kioː˥rijaː]（三味線を弾きなされ）。ジャ˩ヒ˥サンシン[dʒa˩çi˥saŋʃiŋ]（蛇皮三味線）。シ˩ブバイ[ʃi˩bubai]（和紙を芭蕉の渋で張った三味線）などがあった。

シ˩トネーマントネー [ʃi̥˩toneːmantoneː]（名）片足とび。

シ˩ト˥ネー˩マントネー˥ シラ˩ディ˥ー[ʃi̥˩to˥neː˩mantoneː˥ ʃira˩di˥ː]（片足飛びをしようよ）。道路に直径約1.5メートルの円をかき、その中で片足を後方に折り曲げ、

片手でそれをつかみ、片足飛びをして相手に体当りして円の外に相手を押し出す遊び。

シ˩ブバイ [ʃi˩bubai]（名）三味線の一種。胴を和紙と芭蕉の渋で張った三味線。あまり鳴らなかった。にしきへび（錦蛇）の皮で胴を張ったジャ˩ヒ˥サンシン[dʒa˩çi˥saŋʃiŋ]より劣る。

シ˩ミ˥ダンコ [ʃi˩mi˥daŋko]（名）ツルソバの葉（石垣の上に這っている）の新芽の部分を取ってカ˩チャヌパー[ka˩tʃanupaː]（芭蕉の葉）に少々塩を入れて包み、重石をかけておいて漬物代りにして食べる遊び。女児の遊びであった。シ˩˜˥ダンコ[ʃi˩˜˥daŋko]とも発音される。時々シ˩ビ˥タンゴ[ʃi˩bi˥daŋko]とも発音され、丁寧な発音ではシ˩ミ˥ダンコとなり、シ˩イ˥ダンコ[ʃi˩˜˥daŋko]ともなる。

˩シャク [˩ʃaku]（名）「尺」の義か。凧あげする際、風を受けて浮揚させるために風の流れに対する凧の角度を決める糸の長さ。ッ˩クダーヌ˥ シャ˩ク˥ヤ ˩ジョー˥トーニ アトゥ˩ナッ˥ター トゥ˩バヌドゥ˩ラー[ᵏ˩k'udaːnu˥ ʃa˩ku˥ja ˩dʒoː˥toːni ʔatu˩nat˥taː tu˩banudu˩raː]（凧の尺糸は上手に当てないと《決めないと》飛ばないよ）。

ジャ˩ヒ˥サンシン [dʒa˩çi˥saŋʃiŋ]（名）蛇皮三味線。胴を蛇の皮で張って作った三味線。

˩シュ˥イキ [˩ʃu˥iki]（名）海岸に生えており、その幹で水中眼鏡を作るに用いた。（モンパの木）。その葉を搗いて毒魚に刺された患部に当て、包帯しておき、汁に砂糖を加えて少し飲むと、30分程で痛みがとれたという。ヤ˩˜˥トゥイジョ˩˜[ja˩˜˥tuʔidʒo˩˜]という魚の毒針に刺されたときの解毒法である。

シュ˩バヤ [ʃu˩baja]（名）しばい（芝居）。

˩キュ˥ヤー イ˩ナシナ˥ー シュ˩バヤヌ キー˥ドゥッティヤー シュ˩バヤー ミ˥ナティドゥ ハ˩ロー[˩kju˥jaː ʔi˩naʃina˥ː ʃu˩bajanu kiː˥duttijaː ʃu˩bajaː mi˥natidu ha˩roː]（今日は石垣島に芝居が来ているので、芝居を見に行く）。昔は竹富島にも芝居の巡業が来たという。大正の末頃、沖縄から巡業に来て、瓦葺きの大きな家を借り、興行したという。

シュ˩ム [ʃu˩mu]（名）相撲。角力。

シュ˩ム トゥ˩リ[ʃu˩mu tu˩ri]（相撲をとれ）˩シュ˜ヌドゥ シュー˥サ˩チョッ˥ター[˩ʃuːnudu ʃuː˥sa˩tʃot˥taː]（相撲が強い）。

ジ˩ラバ [dʒi˩raba]（名）古謡の一つ。流暢な曲。曲の流れがやや遅い。

˩ジントゥリ [dʒinturi]（名）陣取り遊び。地面に碁盤目の線を引き、相対して陣を構え、ジャンケンをしておはじき（御弾き）を弾いて碁盤目に入れながら領地を増していく遊び。

ス˩ヌ˥フクダ [su˩nu˥ɸu̥kudaː]（名）角凧。三角形の凧。ス˩ヌッ˥クダー[su˩nuᵏ˥k'udaː]

とも発音される（丁寧でない普通の会話での発音の際に現われる）。

ス「ル　[su「ru]（名）つる（弦）。三味線の弦。「ミー¬ジル[「miː¬dʒiru]（細い弦。女弦）、「ウー¬ズル[「ʔuː¬dzuru]（太い弦。雄弦）、ナ「カ¬ズル[na「ka¬dzuru]（中弦。中間の弦）の三弦がある。

「ソー　[「soː]（名）三味線の棹。三味線の胴の部分から上方に弦を張った部分。

「タイ¬ク　[「tai¬ku]（名）たいこ（太鼓）。

「タイ¬ク　ウ「チー[「tai¬ku ʔu「tʃiː]（太鼓を打ちなさい）。「ウー¬ダイ「ク[「ʔuː¬dai「ku]（大太鼓、大きな太鼓）、「クーダイ¬ク[「kuːdai¬ku]（小太鼓）がある。

「タインマ　[「taimma]（名）たけうま（竹馬）。「タインマ¬ナー　「ヌーリ¬シティー　ア「スウッタラ¬ー　ム「カ¬シェー[「taimma¬naː「nuːri¬ʃi̥tiː ʔa「suuttara¬ː muː「ka¬ʃeː]（竹馬に乗って遊んだよ、昔は）。「ドゥー¬サーニドゥ　「タインマ¬　ッ「クリッ¬ティー　「アンネ¬　ア「スブタナッ¬ティヤー[「duː¬saːnidu「taimma¬ ᵏ「kurit¬tiː「ʔanne¬ ʔa「subutanat¬tijaː]（自分で竹馬を作ってあんなに遊んだよ）。「ナッ¬ティヤー[「nat¬tijaː]（～よ。終助詞）。

タ「ビヒキャ　[ta「biçikja]（名）はまゆう（浜木綿）の表皮を剥ぎ、内皮のビニール状の部分を利用して、その中に蛍を入れて遊んだ。提灯にして遊んだ。浜木綿の皮は「イーヤチー[「ʔiːjatʃiː]（おにぎり）の皿にも使った。

タ「ナー　[ta「naː]（名）木の上に棚をかけてそれに上って遊ぶもの。夏の暑い時によく棚の上で遊んだ。

ティ「マ　[ti「ma]（名）手間賃。手間代。小遣い。ティ「マ¬　ピードゥリーヤ　「トゥーサタッ¬ティン　「ヒーッティ　クー[ti「ma¬ piːduriːja「tuːsatat¬tiŋ「çi̥ːtti kuː]（手間賃をやるから、遠くても行って来い）。

ᵛ「クダー　[ᵏ「k'udaː]（名）たこ（凧）。

ᵛ「クダー　ハリティー　ソン¬ガチェーヤ　ᵛ「クダー　ハリティドゥ¬　ダン「ティ¬トゥ「バスタナッ¬ティヤー[ᵏ「k'udaː hariti: soŋ¬gatʃeːja ᵏ「k'udaː haritidu¬ dan「ti¬ tu「basutanat¬tijaː]（凧を張って、正月には凧を張って飛ばしたよ）。ᵛ「クダー[ᵠ「kudaː]（凧）とも発音される。ゆっくり、丁寧に発音するとᵛ「クダーとなる傾向が認められる。ᵛ「クダー　トゥバサディ¬ー[ᵠ「kudaː tubasadi¬ː]（凧を飛ばそうよ）。

「デーッタナッティ¬ヤー[「deːttanatti¬jaː]（連）～であったよ。「du・jatte・natte・jaː」の縮約形か。「～ぞ・であって・なている・よ」の義か。

トゥ「ドー¬リ[tu「doː¬ri]（副）大きく負けること。大欠損をすること。大いに。大分に。したかなこと。

トゥ「ドー¬リ　ッサー[tu「doː¬ri ssaː]（大打撃を受けた。大欠損をした。大いに負けた）。

ナ⌜タ⌝ーッ⌜ティヌ⌝・ナカー[na⌜ta⌝:t⌜tinu⌝-nakaː]（連）あの二人の仲は、ナ⌜ター⌝ッ⌜ティヌ⌝　ナカー　⌜デージッ⌝ティ　⌜カイ⌝サダ⌜ルー[na⌜ta⌝:t⌜tinu⌝ nakaː ⌜deːdʒit⌝ti ⌜kai⌝sada⌜ruː]（あの二人の仲は大変よい。大変にきれいだ）。

ナ⌜ワ⌝トビ[na⌜wa⌝tobi]（名）なわとび（縄飛び）。

⌜ナン⌝ガシャー[⌜naŋ⌝gaʃaː]（名）なぞなぞ（謎謎）。⌜ナン⌝ガ⌜シャー⌝　シー　アスバ⌜ディ⌝ー[⌜naŋ⌝ga⌜ʃaː⌝ ʃiː ʔasuba⌜di⌝ː]（なぞなぞをして遊ぼうよ）。例、⌜ジー⌝ヌ　⌜ジー⌝マガリャーヤ　⌜ノーラー[⌜dʒiː⌝nu ⌜dʒiː⌝ magarjaːja ⌜noːraː]（字の曲ったのは何か）。

⌜ニン⌝ギョ⌜ナー[⌜niŋ⌝gjo⌜naː]（名）にんぎょう（人形）。

⌜ニンブチャー[⌜nibutʃaː]（名）念仏者。竹富島の念仏者は代々世襲制であったという。前浜家がその職を担当したという。その後新本家に移ったという。

⌜ヌッサー⌝・ヌッサー[⌜nussaː⌝-nussaː]（副）温温と。⌜ヌッサー⌝　ヌッサーシ　ティ⌜ダー⌝　フ⌜ヌイ[⌜nussaː⌝ nussaːʃi ti⌜daː⌝ ɸu⌜nui]（温温と太陽に当って温まりなさい）。

バ⌜ショ〜ーサーニ[ba⌜ʃoɪ̃saːni]（連）君たちと。バ⌜ショ〜ーサーニヤー⌝　ア⌜スバヌー[ba⌜ʃoɪ̃saːnijaː⌝ ʔa⌜subanuː]（君たちとは遊ばない）⌜ビ⌝ド〜ー　⌜ター⌝イドゥ　ア⌜スバー[⌜bi⌝doɪ̃⌜taː⌝i du ʔa⌜subaː]（男の子とだけ遊ぶ）。

ヒ⌜クン[çi̥⌜kuŋ]（動）ひく（弾く）。

⌜バン⌝ダーヤ　⌜キュー⌝ヤ　ヒッ⌜カヌー[⌜ban⌝daːja ⌜kjuː⌝ja çi̥k⌜k'anuː]（私は、今日は弾かない）。⌜キュー⌝ヤ　ヒ⌜キッターネー⌝ヌ[⌜kjuː⌝ja çi̥⌜kittaːneː⌝nu]（今日は弾きたくない）。ヒッ⌜キハジ〜ーシター[çi̥ᵏ⌜kihadʒiɪ̃ʃitaː]（弾きはじめた）。ヒッ⌜クシトゥヌドゥ⌝　ブ⌜ラーンシェー[çi̥ᵏ⌜kuʃitunudu⌝ bu⌜raːŋʃeː]（弾く人がいない）、⌜ワー⌝　ヒッ⌜クスニ⌝ヤッター　⌜バヌン⌝　ヒクン[⌜waː⌝ çi̥k⌜kusuni⌝jattaː ⌜banuŋ⌝ çi̥kuŋ]（君が弾いたら私も弾く）。

⌜ピョーダイ[⌜pjoːdai]（名）笛。

⌜ピョーダイ⌝　フ⌜キ⌝ルヌヤッティー　アン⌜ネー　ウ〜ッ⌝サ　⌜スヌ⌝シェー[⌜pjoːdai⌝ ɸu̥⌜ki⌝runu jattiː ʔan⌜neː ʔuɪ̃s⌝sa ⌜sunu⌝ʃeː]（笛を吹いているので、あんなにおもしろいよ）。トゥ⌜バ⌝ルマーヤ　⌜ピョーダイヌ　ヘー⌝ヤードゥ　⌜ウ〜ッ⌝サ⌜ルー[tu⌜ba⌝rumaːja ⌜pjoːdainu heː⌝jaːdu ⌜ʔuɪ̃s⌝sa⌜ruː]（トゥバルマ節は笛の音が入った方がおもしろい）。

⌜ピョー⌝レ〜ゴッ⌜ト[⌜pjoː⌝rẽːgot⌜to]（名）かくれんぼ（隠れん坊）。ジャンケンで鬼を決め、他は隠れて見つけられぬようにする。それを鬼が探し出し、最初に見つけられた者が次の鬼となる遊び。

⌜ピョー⌝レーゴッ⌜ト⌝　シラー[⌜pjoː⌝rẽːgot⌜to⌝ʃiraː]（隠れん坊をしようよ）。

⌜ブー⌝サー[⌜buː⌝saː]（名）じゃんけん（石拳）。沖縄から入ってきた遊びかという。グ

ー、チョキ、パーで勝負する遊び。

ブ˩サ˥フニ[bu˩sa˥ɸuni]（名）尾骨。凧の尾の部分の骨。˩マー˥フニ[˩maː˥ɸuni]（前骨）よりやや短かめにし、凧の形状が逆台形になるように作った。尾骨の両端に糸を結んで尺を当てて流し、凧が回転しないように安定させた。

フ˩ジ[ɸu˩dʒi]（名）おみくじ（御神籤）。つかさ（司、神女）が神意を知るため、神前で祈願をした後に、盤上や皿の上に米粒を並べて吉区を占うこと。

フ˩ジ˥　ヒケー˩ニ[ɸu˩dʒi˥ çi̥keː˩ni]（籤を引きなさい）。˩マイシジサーニ˥　フ˩ジ˥　ヒケー˩ニ[˩maiʃidʒisaːni˥ ɸu˩dʒi˥ çi̥keː˩ni]（米粒で籤を引いてごらん）。フ˩ジ˥　ヒクッカサーニドゥ　˩イー˥　フジヌドゥ　˩トーライ˥ル　˩ユー[ɸu˩dʒi˥ çi̥kukkasaːnidu ˩ʔiː˥ ɸudʒi˩toːrai˥ ru˩juː]（籤を引いたら、いい籤をいただいたのです）。

ブ˩ドゥイ・シールン[bu˩dui-ʃiːruŋ]（連）踊る。踊りする。ブ˩ドゥイ　シレー[bu˩dui ʃireː]（踊りをしなさい。踊れ）、ブ˩ドゥレ˥ー[bu˩dure˥ː]（踊れ）。ブ˩ドゥイドゥシーラ˥ー[bu˩duidu ʃiːra˥ː]（踊をしているのか。踊っているのか）。ク˩ヌ　ドゥン˥ナーヤー　ブ˩ドゥイ　スーナ˥ー[ku˩nu dun˥naːja bu˩dui suːna˥ː]（ここでは踊るな）。ブ˩ドゥリタダ˩ルー[bu˩duri tada˩ruː]（踊りたい）、ブ˩ドゥイ˥　シタダ˩ルー[bu˩dui˥ ʃi̥˩tada˩ruː]（踊りたい）、ブ˩ドゥイ　シール　シトゥヌ　ドゥ˥　ブ˩ラーヌ[bu˩dui ʃiːru˥ ʃi̥˩tunudu˥ bu˩raːnu]（踊りする人がいない）。˩ワー˥　ブ˩ドゥイ　シースッ˥ター　バ˩ヌ˥　ン　ブ˩ドゥイ　シールン[˩waː˥ bu˩dui ʃiːsut˥taː ba˩nu˥m bu˩dui ʃiːruŋ]（君が踊ったら私も踊る）ウ˩ニ˥ッ˥サ　ブ˩ドゥラリタチョッ˥ター[ʔu˩ĩs˥sa bu˩durarita tʃot˥taː]（大変おもしろく踊ることができた。踊れた）ウ˩ニ˥ッ˥サ　ブ˩ドゥイ　シーッ˥ター　˩ケー˥ラーラ　フ˩ミラリ˥シター[ʔu˩ĩs˥sa bu˩dui ʃiːt˥taː ˩keːraːra ɸu˩mirari˥ʃi̥taː]（上手に踊ったので皆から誉められた）

˩マーフニ[˩maːɸuni]（名）凧の頭部の大きな骨。ブ˩サ˥フニ[bu˩sa˥ɸuni]（尾骨）よりやや長めにし、完成後に糸で弓状に曲げ、その糸（弦に当たる部）に細長い、うすい油紙を張って風に当てて鳴らした。

˩マーリャ[˩maːrja]（名）まり（鞠、毬）。ソテツの花（毛状のもの）を集めて日干しにし、水分を除去して軽くする。それを糸（麻糸）で巻いて作った。˩ハナ˥マー˩リャ[˩hana˥maː˩rja]（毬の表皮に花の刺繍を施したもの）というのもあった。

ミ˩ズフキャ[mi˩dzuɸukja]（名）水鉄砲。

˩ミッチングヤー[˩mittʃiŋgujaː]（名）女の子の隠れん坊。女児が母親の冬用の厚手の着物をもってきて、二班に分かれ、1班は家の中にいて着物を被って隠れる。門の外に出ていた二班の子供が着物の中に隠れている子供を触りながら名前を当てる遊び。「見つけくらべ」の義か。

˩ミュ˥ニ˥ヌ[˩mju˥ĩnu]（名）「見もの」の義。見世物。˩ミュ˥ニ˥ヌ　デッタラー　˩キュ

ー˥ヤー　「デージッ˥ティー　「ウ〜ッ˥サル　「ミュ˥〜ヌドゥ　「ミッ˥ティ　「クッ˥タ「ルー[「mju˥ĩnu dettara:「kju:˥ja「de:dʒit˥ti「ʔuĩs˥saru「mju˥ĩnudu「mit˥ti「kut˥ta「ru:]（見世物であった。今日は、大変おもしろい見世物を見て来たよ）

「**ムー˥ヤイ**[「mu:˥jai]（名）もやい（催合）、たのもしこう（頼母子講）。無尽講。「ムー˥ヤイヌ　ク「ジ˥　ヒ「クッター˥ドゥ　バ「ヌ˥ナー　ア「タリシェー[「mu:˥jainu ku「dʒi˥ çi̥「kutta:˥du ba「nu˥na: ʔa「tariʃe:]（頼母子の籤を引いたら、私に当っているよ）。

「**メー˥シュトゥシュ〜トゥ**[「me:˥ʃu̥tuʃuĩtu]（連）もう一度。「ワー˥　ウター　「メー˥シュトゥシュ〜トゥ　イ「ジェ˥ー「ニー[「wa:˥ ʔuta:「me:˥ʃu̥tuʃũĩtu ʔi「dʒe˥:「ni:]（君の歌をもう一度歌ってごらん）。「キュー˥ヤ　ブ「ガ˥リドゥリャー　ウター　イ「ジャリオーサネー「ヌ˥　バ「ショーホー˥イ　イジョー「リ[「kju:˥ja bu「ga˥ri durja: ʔuta: ʔi「dʒario:sane:「nu˥ ba「ʃo:ho:˥i ʔidʒo:「ri]（今日は疲れているから歌は歌えない。あなた方で歌いなされ）。

「**ヤーッ˥タフ「ニ**[「ja:t˥taɸu「ni]（名）凧の横骨。凧の頭骨より尾骨へわたす細い竹ひご。薄く、細めに削って作った。

ヤ「〜˥トゥイジョ「〜[ja「ĩ˥tuʔidʒo「ĩ:]（名）魚名。毒針を有し、刺されると激痛を伴なう。きれいな魚。刺されたら、「シュイ˥キ[「ʃui˥ki]（もんぱ）の木の葉を搗いて滓を患部に当て、汁に砂糖を混ぜて飲んだという。30分ほどで痛みがとれたという。ウ「リン˥　ッ「ソー˥イシター　メー　「ト˥ーッティ　「ティー˥ヤ　「プッ˥クイ　シードゥナッ「ティ˥ヤー[ʔu「rin˥ s「so:˥iʃita: me:「to˥:tti「ti:˥ja「puk˥kui ʃi:du nat「ti˥ja:]（それに刺されると手はもう腫れてしまうよ）。

ヤ「ナイジ[ja「naidʒi]（名）いじめ。悪くいう。悪し様に叱る。

ウ「ヌ　ファーヤ˥　シ「トゥユー˥　ダ「ーッ˥ティ　ヤ「ナイジ˥　シルンドゥ「ラー[ʔu「nu ɸa:ja˥ ʃi̥「tuju:˥ da「:t˥ti ja「naidʒi˥ ʃirundu「ra:]（あの子は人をいじめるぞ）。

「**ヤンダリ˥ク「ナ**[「jandari˥ku「na]（名）かけっこ（競走）。「ヤンダリ˥ク「ナ˥　シラ「ディ˥ー[「jandari˥ku「na˥ ʃira「di˥:]（かけっこしよう）。

「ヤンダリ˥ク「ナ˥　シッティー　「バー˥ドゥ　カ「チッ˥タナッ「ティ˥ヤー[「jandari˥ku「na˥ ʃi̥tti:「ba:˥ du ka「tʃit˥tanat「ti˥ ja:]（かけっこして、私が勝った）。

「**ユングトゥ**[「juŋgutu]（名）古謡の一つ。主に教訓的な内容をもつという。

「**ユン˥タ**[「jun˥ta]（名）古謡の一つ。曲の流れがやや早い。田畑の耕作時に歌った労働歌とされている。

「**ヨイサ**[「joisa]（名）ぶらんこ。鞦韆。二本の綱を木の枝に吊り下げて横木に結わえ、それに乗って前後にこぎ揺らせて遊ぶ遊具。

「ヨイサ　クイ˥ヤー[ˈjoisa kui˥jaː]（ぶらんこを漕ぎなさい）。

「ヲータン˥チャ〜ー[ˈwoːtan˥tʃaː̃]（連）君一人。「ヲータン˥チャ〜ードゥ　アスビーダー[ˈwoːtan˥tʃaː du ʔasubiːdaː]（貴方一人で遊んでいるのか）。「ハイ˥サ　ア「スビッティー　ハイ˥サ　「カイ˥リクー「ナ˥ー[ˈhai˥sa ʔa「subittiː hai˥sa「kai˥rikuː「na˥ː]（早く遊んで、早く帰ってきなさいよ）。ア「スブドゥン˥ナー　カ「ナイ˥ドゥ　ッスヌシェー[ʔa「subudun˥naː ka「nai˥du ssunuʃeː]（遊ぶ所が整っている。〜揃っている。〜十分にある）。

ン「タブン[n「tabuŋ]（動）もて遊ぶ。弄ぶ。玩ぶ。いじる（弄る）。ン「タ˥イ　フジ「ルン[n「ta˥iɸudʒi「ruŋ]（いじる。いじくる（弄くる））。「ティー˥ヤ　ユ「グリドゥ　ウリ˥ヤー　ン「タ˥ブ「ナ[ˈtiː˥ja ju「guridu ʔuri˥jaː n「ta˥bu「na]（手は汚れているから弄るな）。マ「ジョー˥ン　ン「タバ˥ディー[ma「dʒoː˥n n「taba˥diː]（一緒にいじろう）。ン「タ˥ブ　シトゥドゥ　ブ「ランバー˥　ナ「ラヌ˥　クレー[n「ta˥bu ʃi̥tudu bu「rambaː˥ na「ranu˥ kureː]（いじる人がいないので、これは出来ない）。ン「タ˥ブ「タッ˥ティン　タ「ロー˥ン　イ「ジュットー　ネー「ヌ[n「ta˥bu「tat˥tin ta「roː˥ŋ ʔi「dʒuttoː neː「nu]（いじっても誰も叱る人はいない）。「ワー˥　ン「タ˥ブ「スニ˥ヤッター　バ「ヌ˥ン　ン「タブン[ˈwaː˥ n「ta˥bu「suni˥jattaː ba「nu˥n n「tabuŋ]（君がいじったら僕もいじる）。ン「タ˥バン[n「ta˥baŋ]（いじっても〜）。「ハイ˥サ　ン「タ˥ビ「ヤ˥ー[ˈhai˥sa n「ta˥bi「ja˥ː]（早くいじりなさい）。